

ALSOK REPORT 2020

[2020年3月期]

綜警憲章

経営理念

我が社は、「ありがとうの心」と
「武士の精神」をもって社業を推進し、
お客様と社会の安全・安心の
確保のために最善を尽くす。

経営指針

1. 経営の基本精神

何事にも、常に感謝の心を忘れない「ありがとうの心」と、強く、正しく、温かい、「武士の精神」をもって取り組むとともに、社徳のある会社を確立する。

2. 経営の優先順位

お客様に対して最高のサービス・商品を提供することを最優先とし、併せて社員にとって働きがいのある会社の実現に努めるとともに、収益の拡大を通じて株主の期待に応える。

3. 経営の基本戦略

常に変化する時代のニーズに適うべく、警備業を中核としつつ、新たな分野におけるサービス・商品を幅広く提供する。

4. 社会・公共への貢献

安全・安心に関する公の施策に協力し、社会の発展に貢献するサービスの展開と商品の開発を行う。

行動規範

1. 我々は、常に「ありがとうの心」を基本におき、お客様へのサービスに誠心誠意、最善を尽くします。
2. 我々は、強く、正しく、温かい、「武士の精神」を体現し、いかなる困難にも正々堂々と立ち向かい、一丸となって目標を達成します。
3. 我々は、独立自尊の「野鳥精神」をもって、自ら考えて仕事に取り組み、自らの責任で必ず成果を出します。
4. 我々は、「誠実、正確、強力、迅速」をモットーに行動します。
5. 我々は、現状に甘んじることなく、仕事の質の向上と収益の拡大に向けて常に革新を求め、挑戦し続けます。
6. 我々は、真のリーディングカンパニーにふさわしい人材となるべく、コンプライアンスの意識を高く持つとともに、日々、自己研さんに努めます。

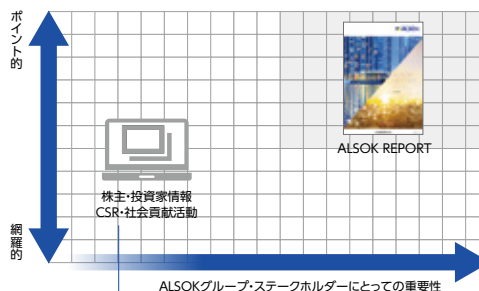
編集方針

「ALSOKレポート2020」は、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様とのさらなる対話のきっかけになることを目指し、業績および事業概況や戦略などの財務情報と、CSR活動などの非財務情報を「統合レポート」としてまとめたものです。

経済的観点からの経営状況を開示するとともに、ALSOKグループが持続的な価値創造による成長を図るための考え方や、中長期の経営・事業戦略・成長を支える事業構造に加え、ESGへの取り組みと国際社会全体で取り組むSDGsの課題解決につながる、数々のCSR活動をご説明しています。なお、本レポートでご紹介しきれなかったデータやより詳細な企業活動の情報については、Webサイトに掲載しています。

報告メディアについて

冊子とWebそれぞれのメディアの特性を活かしたレポートングを行っています。冊子版では重要性の高い、または読者からの関心の高い項目に絞って、読みやすかつ分かりやすく紹介しています。またWeb版では財務情報やCSRなどの取り組み全体を網羅的に掲載しています。



株主・投資家情報

経営方針、財務・業績、IRライブ러리、株式情報についての詳細は、Webサイトをご覧ください。

<https://www.alsok.co.jp/ir/>

CSR・社会貢献活動

ISO26000に沿って、本業を通じた形で実践している活動の詳細は、Webサイトをご覧ください。

<https://www.alsok.co.jp/company/society/>

会長メッセージ

ALSOKが社会に提供すべき価値

はじめに、今般の新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、感染された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

ALSOKは、警察官僚であった創業者が1964年の東京オリンピック大会の運営に深く関わったことをきっかけに、翌1965年に誕生しました。創業以来、「ありがとうの心」と「武士の精神」を経営の基本精神に掲げ、お客様と社会の安全の確保のために日々努力を続けてまいりました。この精神は会社が年月を重ねてもなお揺らぐことなく継承すべき原点であるとして、全従業員に脈々と受け継がれ、今日にいたるまでグループ全体でその理想を追求し続けております。

近年は、子ども、高齢者などを狙った犯罪、サイバー犯罪や情報漏えい、激甚化する自然災害、感染症の世界的流行など、社会を取り巻くリスクが多様化しています。私たちは、安全を支える社会インフラの一翼を担う企業として、これらの社会的課題の解決に事業を通じて貢献し、持続可能な企業価値の創造に努め、社会に暮らす人々の安全をより確かなものとしていきます。

開催が来年に延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会*は、創業の理念の再確認の場と捉え、大会警備JV(共同企業体)の代表としての責務を果たすとともに、業界一丸となって安全な大会の実現に貢献できるよう全力で取り組んでいきます。

代表取締役会長
最高経営責任者 (CEO) **村井 温**



*ALSOKは、東京2020オフィシャルパートナー(セキュリティサービス&プランニング)です。

CONTENTS

Overview	01	綜警憲章/編集方針	SDGs・ESG	23	持続可能な社会の実現のために
	02	会長メッセージ		25	CSRマネジメント
	03	社長対談		27	地球環境への配慮
	07	ALSOKの価値創造の歩み		29	社会的課題の解決に貢献する商品・サービスの提供
	09	財務/非財務ハイライト		31	人材育成・活躍への取り組み
Vision	11	ALSOKの事業概況	33	地域貢献活動	
	15	ALSOKの強み	35	品質向上への取り組み	
	17	ALSOKの価値創造モデル	37	コーポレート・ガバナンス	
Strategy	19	特集 ALSOKの新たなサービス展開	41	取締役、監査役および執行役員	
	21	特集 サイバー空間の安全安心のためにALSOKができること	Financial Information	45	財務セクション
				50	会社情報/株式情報

ポストコロナを展望した ALSOKの社会的役割

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が国内外で拡大しており、社会や経済に深刻な影響を及ぼしています。今後、ポストコロナとして社会が大きく変わっていくなか、ALSOKに求められる役割とは。経済産業研究所前理事長で、現在新潟県立大学教授の中島厚志様をお招きし、ALSOKが今後取り組むべき施策について、貴重なご意見をいただきました。



代表取締役社長
最高執行責任者(COO)
青山 幸恭

新潟県立大学 教授
中島 厚志氏

Profile

1975年 3月 東京大学 法学部 卒業
1975年 4月 大蔵省(現財務省) 入省
1980年 潮来税務署長
1992年 7月 オックスフォード大学客員研究員
1993年 7月 大臣官房企画官 兼 大臣官房調査企画課
1994年 7月 東京国税局査察部長
1995年 8月 和歌山県警察本部長
2000年 6月 環境庁企画調整局 企画調整課長
2002年 7月 横浜税関長

2003年 7月 大臣官房参事官 兼 大臣官房審議官 (関税局担当)
兼 東京大学客員教授
2006年 7月 関税局長
2008年 7月 退官
2008年 8月 総合警備保障株式会社 入社 常務執行役員に就任
2009年 6月 同社 代表取締役、専務執行役員に就任
2010年 4月 同社 代表取締役副社長に就任
2012年 4月 同社 代表取締役社長に就任 現在に至る

Profile

1975年 3月 東京大学 法学部 卒業
1975年 4月 株式会社日本興業銀行 入行
1987年 8月 調査部主任部員
1992年 4月 国際営業第一部課長
1995年 5月 産業調査部 主任部員、同副部長
1997年 6月 パリ支店 副支店長、同支店長
1999年 10月 パリ興銀 社長
2000年 6月 調査部長

2002年 4月 みずほ総合研究所執行役員 調査本部本部長
~2003年 3月 兼みずほコーポレート銀行調査部長
2003年 3月 みずほコーポレート銀行執行役員調査部長
~2004年 3月 兼みずほ総合研究所執行役員 調査本部本部長
2004年 4月 みずほ総合研究所(株)専務執行役員
~2011年 3月 調査本部長
2011年 4月 独立行政法人経済産業研究所理事長
2020年 4月 新潟県立大学教授 独立行政法人経済産業研究所 コンサルティングフェローを兼職
2020年 6月 公益財団法人日仏会館理事長を兼職

ALSOKグループを取り巻く環境の変化 ～コロナ禍によって社会に何が起きているのか～

中島教授(以下 中島): 新型コロナウイルス感染症は今なお拡大を続けており、今後も第2波、第3波、さらには、将来新たなパンデミック発生の可能性も懸念されています。感染予防が不可欠な状況が続くと予想されるなかでは、医療体制の充実とともに、非対面・ソーシャルディスタンスの確保などが引き続き必要とされるでしょう。従って、企業としては、今後とも在宅勤務の拡充等柔軟な働き方を実現するような働き方改革を一層進展させる必要があると思います。

経済については、深刻な景気後退の後、緩やかな回復傾向にあります。すぐに感染拡大前に戻る状況ではありません。現在、企業を、そして雇用を支えるために、日米欧では巨額の財政支出が行われていますが、今後も無制限に支出を継続することは困難です。一方、ITを活用した「経済のデジタル化」は、バーチャルな経済活動であり、物理的に災害・パンデミックによる損害を受けることがないので、「デジタル経済」の分野を拡大していくことも必要でしょう。

さらに、今回のコロナ危機によって、とりわけ米国などで、格差が一段と拡大したことが明らかになってきました。財政支出の拡大には限界があるなか、財政健全化を意識しながら、今後どのように格差是正を図るかということが問われており、社会保障や税制などを通じた対応が進むと見られます。

いずれにせよ、ウイルスの脅威が完全にはなくなるなか、非対面やソーシャルディスタンスなどの新しい生活様式は、社会的動物である人間の本質にはややそぐわない面があるものの、これからも継続されていくこととなります。新しい生活様式が継続されていくなかで、十分な経済活動や個人の生活がどのように保障されるのか、ということが大事なポイントとなります。

青山: 警備業や介護事業においては、身体接触を前提とした対応が求められることが多く、非接触型でのサービス提供には難しい部分があります。エッセンシャルワーカーとしての我々の責務は、感染防止に最大限留意しながら、お客様の安全と安心を守ることにあります。その一方で、この感染状況が続くなか、当社は、従来の「守るべき対象」の範囲を広げ、そこから何を生み出していくことができるのか、ソリューションとして

何を提供できるのかを考えなければいけないと感じています。例えば、屋内の空気清浄や熱中症にならないようなマスク装着器具の工夫など、小さなところから始めて、新型コロナウイルス感染症という新しいリスクに対して、危険の察知や感染拡大防止などの面で我々が貢献しなければならないと考えています。この見えない敵に打ち勝つには、医療関係の方々だけに委ねるのではなく、我々は、自らの責務として、「コロナ対策ソリューション」を提供していかねばなりません。

さらには、社会的弱者をどのようにサポートできるかということも我々の課題です。従来から自治体との連携による高齢者への緊急通報業務を行っていますが、さらに介護を含めて様々な境遇の方々に対して総合的なサービスを具体化していくことが求められています。

中島: このコロナを機に、従来の建物への侵入等に対する警備だけではなく、生活全体を警備する「生活警備」といった考え方がポイントになりますね。

青山: その通りです。人々の安全・安心を守るためには、何かあったら直ちに駆けつけるというサービス機能を拡充させていくことが必要です。また、コロナ禍以前から課題になっている部分について、さらに変革を進めていくことが必要です。これまで、東京オリンピックを想定して、ゾーンセキュリティマネジメントという仕組みによってイベント警備の人員配置を効率化することや、動画判断の導入、設備管理を含めた機械警備サービスの提供などに取り組んできましたが、今後このような取り組みをさらに進め、ビッグデータやAI等を積極的に活用しながら、警備や設備管理のデジタル化を加速させていくことが必要です。

中島: ALSOKには日々日本中の膨大なデータが蓄積されており、我々の生活の安全安心を守るところで、ビッグデータが一番近い立場にあり、様々な活用ができるのがALSOKであると思います。

人々の生活を守るという観点では、ALSOKは介護事業にも取り組まれ、その規模を拡大してきていますね。

青山:当社は、創業の精神である、「ありがとうの心」と強く、正しく、温かい「武士の精神」を基に、公共性の高い仕事を従来から行っておりますので、介護事業を担うに相応しい企業ではないかと思っています。

「駆けつけて対応する」という点では、自治体との協働による緊急通報業務は、訪問介護・看護にも通じるところがあり、警

備業と介護事業には親和性があると言えます。現在、弊社では、訪問介護・看護と施設介護を総合的に運営しており、首都圏において約6,500部屋を運営し、訪問医療マッサージを含め約18,000人の方々にサービスを提供しております。また、保険外サービスや経済的に恵まれない方々向けのスキームも提供しております。

Theme2

ALSOKの持続的成長へ向けて～環境の変化と10年後のALSOK～

中島:高齢者や経済的に恵まれない方々などは、パンデミックに対して、社会的、経済的に脆弱な方々であると言えます。少子高齢化が進展するなかで、このような方々をしっかり守ることは、国のみならず、社会や企業も取り組むべき課題です。また、成熟国家である我が国は、世界有数規模の金融資産を内外に保有しており、経済のデジタル化進展に伴って、金融資産管理のためにネットワークを守る必要性も拡大していくと予想されます。守る領域が、住居や商工業用建物から高齢者、経済的に恵まれない方々、金融資産、ネットワーク、或いは生活にまで広がっていくとなれば、経済活動全般における安全・安心を、どのようにしてトータルとして守れるのかということになるでしょう。加えて、経済だけではなく、環境を守ることへの期待も、今後加速度的に高まっていくことは間違いありません。欧州では、2020年5月にグリーンディール構想を打ち出し、医療体制の充実、デジタル化の推進に加えて、環境保全や持続可能な社会などを基盤とするグリーン経済を推進しています。

ESGが発展してSDGsになりましたが、SDGsにおいても社会との共生が重視されており、その中において、ALSOKの「ありがとうの心」と「武士の精神」はものすごく時宜に合った理念であると思います。

青山:「武士の精神」は先程も述べた通り、強く、正しく、温かい心であり、弱者を守るということに繋がり、「ありがとうの心」は、1965年の創業以来、皆様に支えられ、生かされているということだと思っています。

有史以前より、ウイルスは元々森の中で人間と離れて生息していたのですが、人間がどんどん森林を開墾し、家畜等を経由してウイルスに感染してしまった。こうした経緯から、一定の

ソーシャルディスタンスを保ち、環境を守ることの重要性を痛感します。有害鳥獣等が増え過ぎているという問題も、環境問題に行き着くということでしょう。

中島:コロナ禍という環境を考えれば、時代にあったソーシャルディスタンスをどのように社会の中に埋め込んでいくかが欠かせないと思います。ヒトとモノが大量に動き、大量生産・大量消費が行われるということが今後スローダウンすると予想されるなかで、社会をどのように作っていくのかということが大事です。

ESGについては、数年前まで企業の負担にしかならないという声がありましたが、最近では、ESGを重視している企業は収益力が高いという分析があります。ESGが企業価値に直結する時代であり、SDGsや企業の社会的責任などを重視している企業は大変心強い存在です。

青山:確かにおっしゃるとおりで、大量生産・大量消費によって高成長を続けていくというのは、ある意味で夢を見ていたのかもしれませんが。企業価値は利益だけではなく、社会貢献によって評価されますので、社会に貢献することがなければ、企業として成り立ちません。

例えば、在宅勤務のなかで周りを見れば、地域には我々が貢献できる分野がたくさんあるのではないかと。発想を変えれば、警備だけではなく、いろいろなことに取り組むことができます。そのように考えると、ALSOKの役割を表すには、従来の「警備」という言葉では狭すぎます。先程の「生活警備」というのはとてもよい表現だと思いますが、その意味において、まだまだいろいろなことができると思っています。

中島:例えば家の警備にしても、インターネットの時代においては、オンライン上での侵入を防ぐこともセキュリティであり、アプリケーションの会社等に任せることもありません。停電に備えて蓄電池を持つといったことも家を「守る」ことになり、家で起きる様々な不具合を防ぐということになれば、ものすごく幅広いことがセキュリティになります。

青山:現在、トビラフォン（1人暮らしの高齢者に対して詐欺電話を防ぐサービス）、ソリトンセキュアデスクトップサービス（安全なテレワーク環境を提供するサービス）、避難所ソリューション（避難支援から避難所の感染症対策までをワンストップ

で対応するサービス）などを提供していますが、守るべきリスク対象が、盗人から始まって、災害、詐欺、サイバー攻撃等というようにどんどん広がっています。

警備会社として創業したALSOKですが、現在は、警備から設備管理、工事、介護まで、多角的に展開しています。10年後の当社の姿としては、設備管理を梃に警備と設備の両方を担い、介護事業を通じて地域の安全安心をしっかりと支える会社として成長することを目指していきます。国に代わって民間の立場で、お客様の生活をトータルで守り、生活を支えていく役割を果たしていきたいと思います。

Theme3

ステークホルダーへのメッセージ

中島:いかに我々が安全安心で、豊かな生活を送れるのかということが、今後より大きな意味を持つてくると思います。警備という言葉は、狭義では堅い印象がありますが、ALSOKは、より広い意味での「守る」の最前線に立つとともに、社会的責任も強く意識して、幅広く活動されています。今後も、複合的に安心を捉えて、社会警備、即ち、個人や企業はもちろんのこと、社会全体の枠組みを大きく支える企業として邁進していただきたいと思います。

青山:当社が今まで以上に社会警備を幅広く担っていくためには、人材育成を含めキャパシティビルディングをさらに強化し、様々な事態に対応できる能力を構築していかねばなりません。そのような能力を構築しながら、10年後を目指して、日々足元を固めていくつもりです。ポストコロナの社会については、予想し難い部分もありますが、お客様が必要とするもの、求めるものを、先を見据えて素早く対応していくことが必要です。社員一丸となって、一歩ずつ着実に歩みを進めていけば、その先に「新しいALSOK」の姿が現れてくると期待しています。本日は、貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。



ALSOKの価値創造の歩み

ALSOKは、創業以来、「安全・安心」な社会の実現を目指してきました。半世紀におよぶ歴史のなかで、警備の技術やサービスの品質、人材の教育を追求し、そしてそれらを強みとして歩んできました。これからも先進的なチャレンジと独創性を発揮して、社会的課題を解決していきます。



1965年 7月

東京都千代田区内幸町二丁目20番に資本金25百万円をもって、警備請負業を主たる事業目的として総合警備保障(株)を設立

1967年 9月

法人向け機械警備「総合ガードシステム®」を開発、発売

1975年 1月

無人化店舗のCD(現金自動支払機)コーナーを自動制御する「アマンドシステム®」を開発、発売



1988年4月

一般家庭向け機械警備「タクルス®」を開発、発売

1995年1月

阪神・淡路大震災への対応



1997年10月

売上金やつり銭の流れを円滑化し、現金処理に係る要員の省力化・設備コストの削減に効果を発揮する「入金機オンラインシステム」を開発、発売

1998年 4月

一般家庭向けに、防犯・防災警備のほか救急情報、ホームバンキング、健康相談など生活便利機能を備えた「SOKホームセキュリティ」を開発、発売



2002年10月

東京証券取引所市場第一部に株式を上場



2008年12月

インターネット警備サービスの標準化など、お客様視点で発想した「安心・便利」な機能を強化した「ALSOKホームセキュリティα」を開発、発売



2011年 3月

東日本大震災への対応

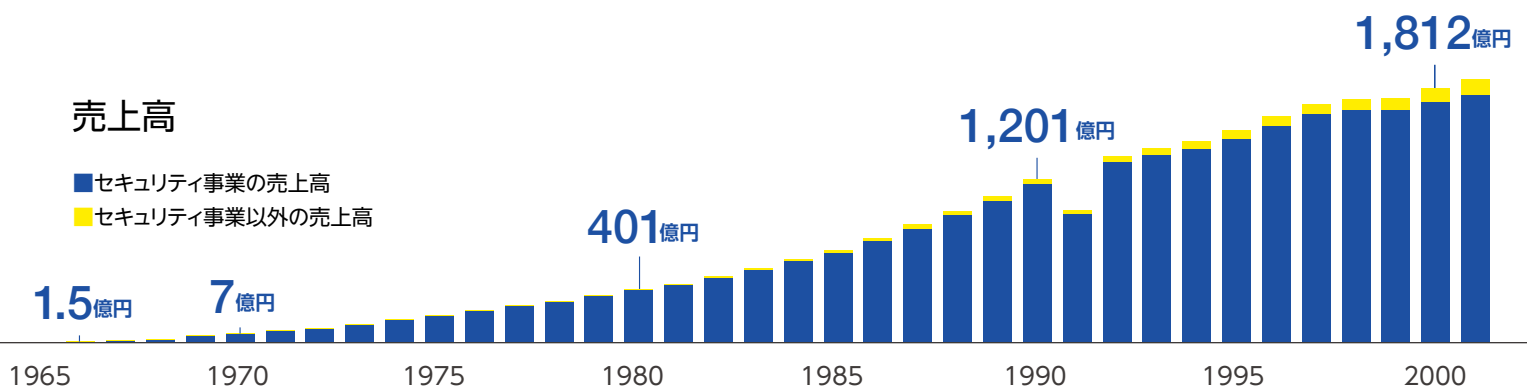


2012年10月

個人向けブランド「HOME ALSOK」立ち上げ

売上高

■セキュリティ事業の売上高
■セキュリティ事業以外の売上高



1965~ 創業の時代

1985~ 守成の時代

1999~

主なM&Aの変遷

2011年 2月 日本ファシリオ(株)
2014年 4月 ALSOK双栄(株) 日本ビル・メンテナンス(株)
2014年10月 (株)HCM
2015年 2月 ALSOKあんしんケアサポート(株)

2016年 5月 (株)ウイズネット
2016年11月 PT. ALSOK BASS Indonesia Security Services
2016年12月 ALSOK Vietnam Security Services Joint Stock Company

TOPICS

(2019年7月~2020年7月)



2020年 2月

法人向け警備システムを刷新
画像監視サービスを標準搭載
した「ALSOK-G7(ジーセブン)」の提供開始



2020年 7月

高齢者向け見守りサービス
「HOME ALSOKみまもり
サポート®」リニューアル発
売

2020年 3月

三菱商事株式会社とのファシリティマネジメント事業に係る
資本業務提携を締結

2020年 4月

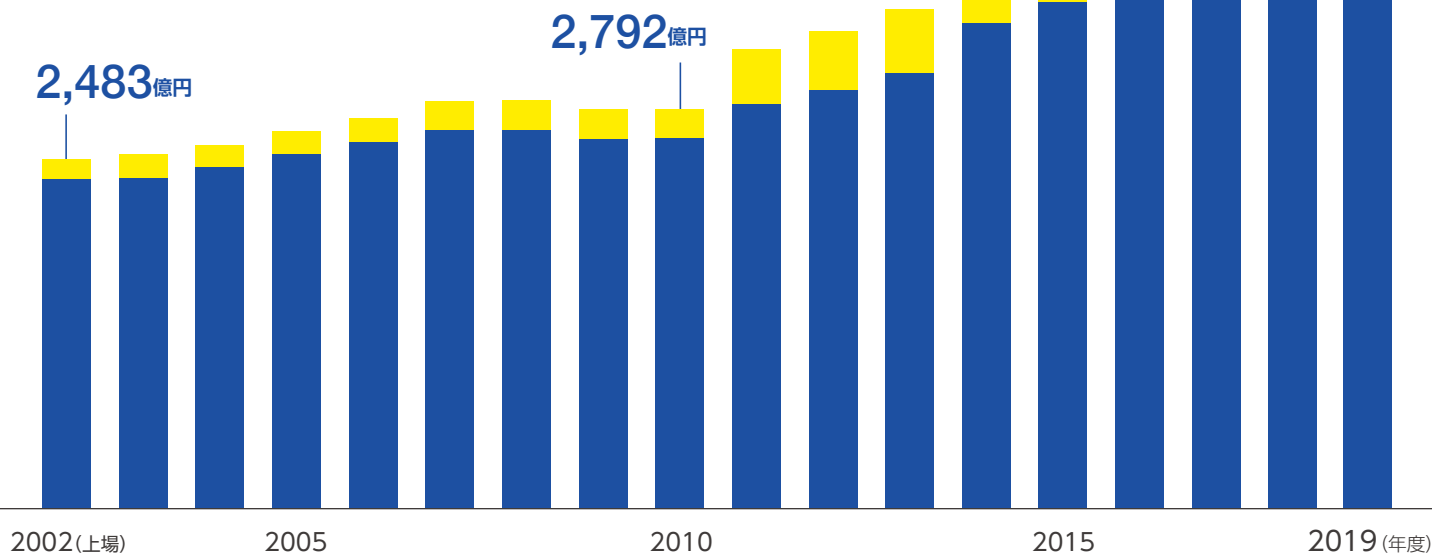
株式会社らいふホールディングスの株式取得

2020年 4月

モバイルみまもり
セキュリティ「まもるつく」
リニューアル発売



4,601億円



第二の創業の時代

2010~ 第三の創業の時代

- 2017年 2月 ALSOK昇日セキュリティサービス(株)
- 2017年 4月 ALSOK-TW東日本(株)
- 2017年 7月 ALSOK関東デリバリー(株)
- 2018年 4月 ALSOK Myanmar Security Services Co., Ltd.

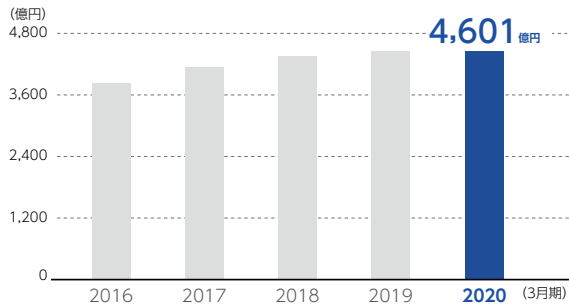
- 2018年 6月 (株)ケアプラス
- 2019年 1月 総合管財(株) (株)ヘルス・サポート
- 2019年 5月 京阪神セキュリティサービス(株)
- 2020年 4月 (株)らいふホールディングス

財務ハイライト

売上高

4,601 億円

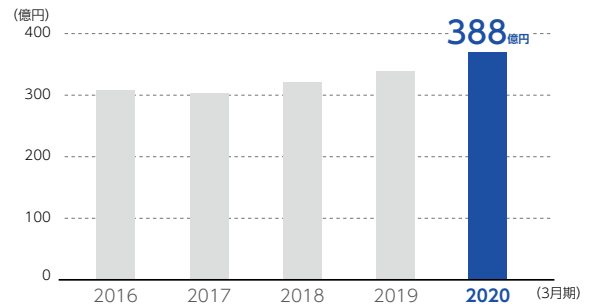
前期比 3.7%増 ↑



経常利益

388 億円

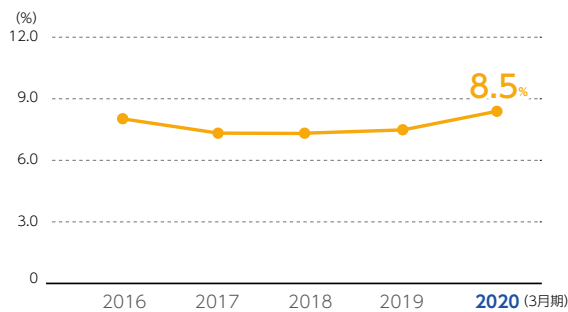
前期比 14.8%増 ↑



売上高経常利益率

8.5%

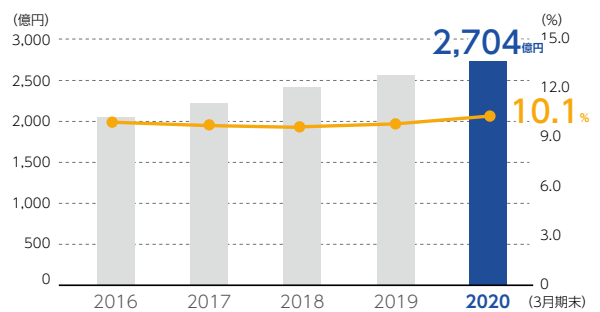
前期比 0.9p増 ↑



純資産/ROE

ROE 10.1%

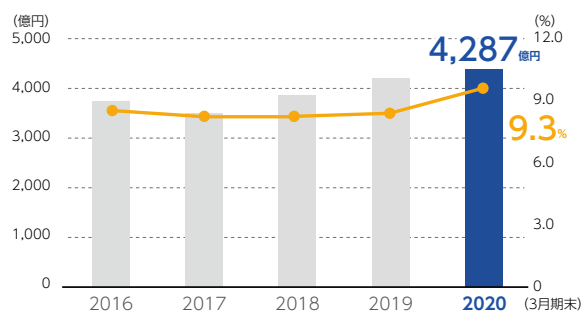
前期末比 0.2p増 ↑



総資産/ROA

ROA 9.3%

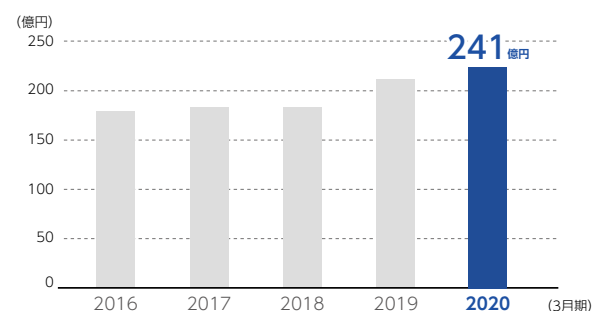
前期末比 0.9p増 ↑



親会社株主に帰属する当期純利益

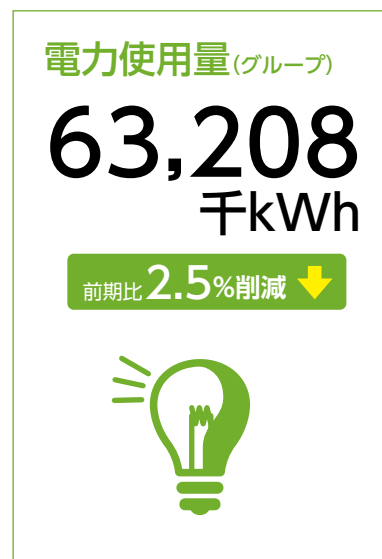
241 億円

前期比 8.5%増 ↑

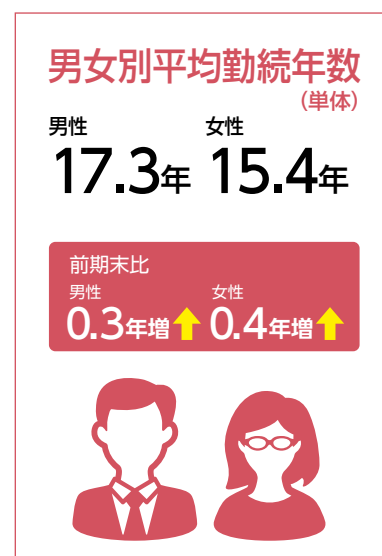
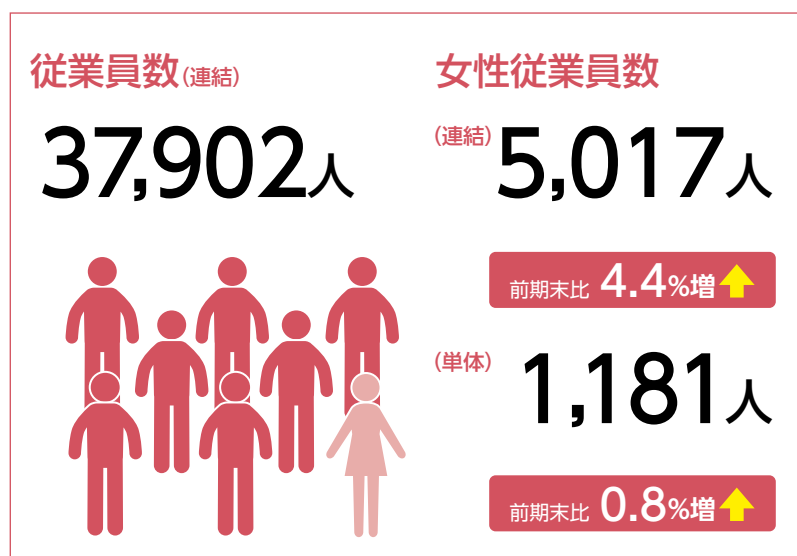


非財務ハイライト

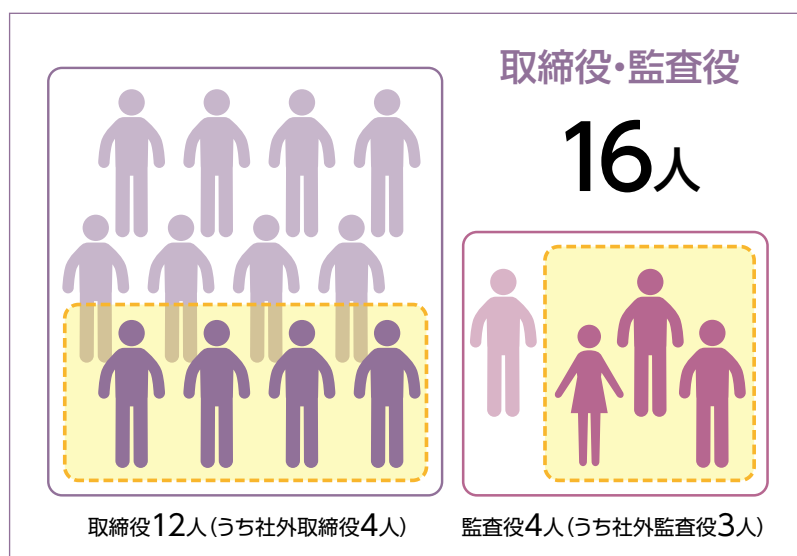
Environment



Social



Governance



ALSOKの事業概況



事業環境

警備業界においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントの中止や、店舗等の休業による警備契約の中断・値下げ等が増加しましたが、他方で、業種別ガイドライン等に基づくお客様の感染症防止対策へのサポート等、新たな日常を構築するためのサービスをご提供する機会が現れております。また、緊急事態宣言解除後の営業再開以降、中断された契約の再開も始まっております。

このような情勢のなか、ALSOKグループは、社会の安全・安心に関するサービス(セキュリティサービス事業、総合管理・防災事業、介護事業)を行う事業者として、非接触型のお客様との接点強化等に留意しつつ、適切にサービス提供を継続してまいりました。また、中期経営計画「Grand Design2020」に掲げたとおり、お客様と社会の安全安心を支える「総合安全安心サービス業」を目指して、多様化・高度化する一人一人のお客様と社会の安全安心ニーズに応えるべく、セキュリティ事業とその関連事業の進化・深化に引き続き取り組んでいます。

国内警備業の概要(2019年12月末現在)

企業数 **約9,900社**

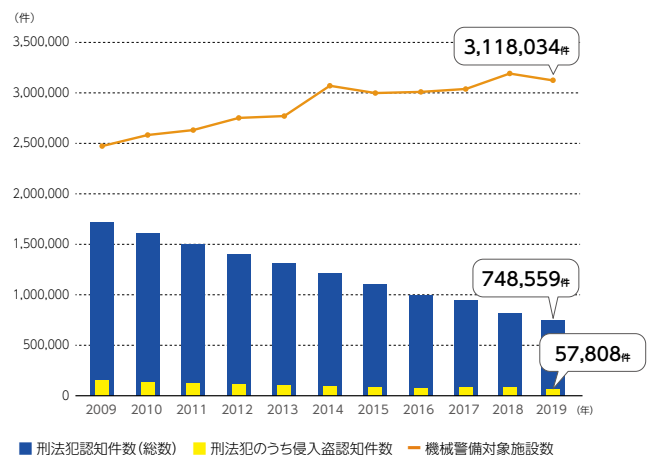
売上高総額

約3.5兆円

警備員数

約57万人
(うち女性は**3.7万人**)

刑法犯認知件数と機械警備対象施設数の推移

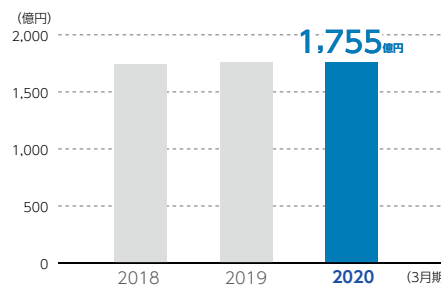
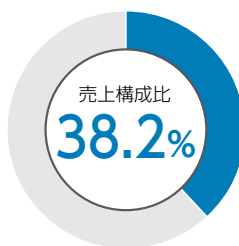


出典: 警察庁「令和2年警察白書」,「犯罪統計資料(平成31年1月~令和元年12月分)」,「令和元年における警備業の概況」

セキュリティ事業

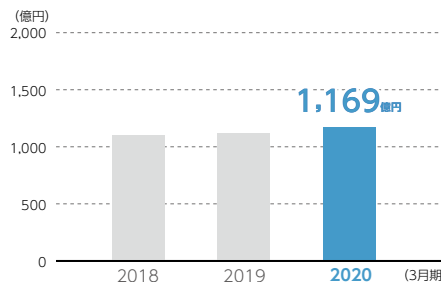
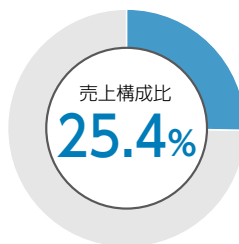
機械警備業務

売上高
1,755億円 前期比 **0.0%増**↑



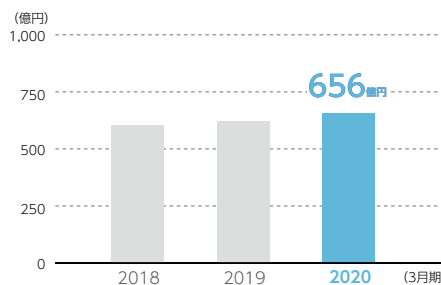
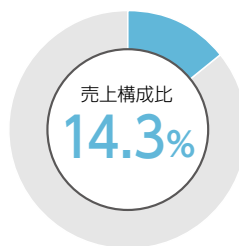
常駐警備業務

売上高
1,169億円 前期比 **4.5%増**↑



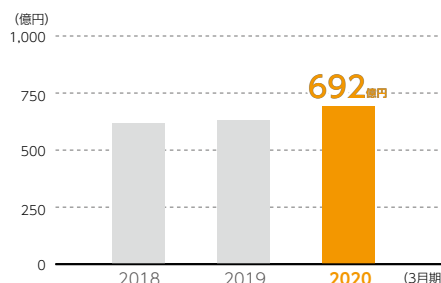
警備輸送業務

売上高
656億円 前期比 **5.4%増**↑



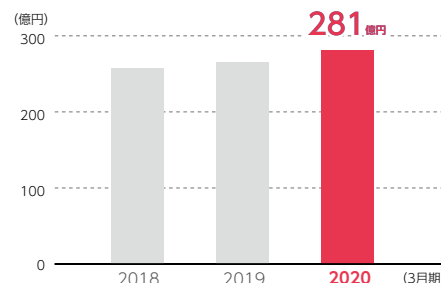
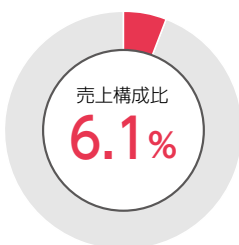
総合管理・防災事業

売上高
692億円 前期比 **10.1%増**↑



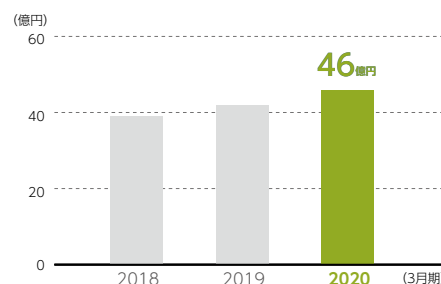
介護事業

売上高
281億円 前期比 **5.7%増**↑



その他事業

売上高
46億円 前期比 **7.9%増**↑



ALSOKの事業概況

セキュリティ事業



機械警備業務

法人向けサービスとして、画像解析技術を活用した動画による画像監視サービスを備えた「ALSOK-G7(ジーセブン)」の販売を推進しています。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、換気による密閉空間の改善を図るサービスとして「ALSOK換気促進ソリューション」の提供を開始しました。このサービスでは、二酸化炭素(CO₂)濃度を測定する環境センサーをALSOK-G7に追加することで、店舗管理者や従業員等に換気を促すメールを送信したり、換気扇等を自動制御することが可能となります。

個人向けサービスとしては、設置工事が簡単な住宅向けスタンダードモデルである「ホームセキュリティBasic」等を提供しています。また、モバイルみまもりセキュリティ「まもるっく」をリニューアルし、従来からのセキュリティ機能に加え、日常の連絡手段である電話機能を充実させました。さらに、災害発生時の避難支援、徘徊等の早期把握等地域包括ケアの充実に貢献する多様なメニューを備えた、新しい「HOME ALSOKみまもりサポート[®]」の提供も開始しました。

常駐警備業務

新型コロナウイルス感染症拡大による各種イベントの中止等の影響を受けて、臨時警備の受注が減少しましたが、長期契約の新規受注拡大や採算の改善に努めています。

警備の効率化・省人化を実現するサービスとして、スタッフ間の円滑な相互連携を可能とする「ALSOKスタッフ等連携システム」、自律移動型警備ロボット「REBORG[®]-Z」や「ALSOK交通誘導システム」等を提供しています。



警備輸送業務



金融機関向けでは、店舗内・外ATMのアウトソース件数が引き続き増加し、当社のATM管理台数は約73,000台に達しました。また、金融機関の事務センターアウトソース等の受託についても強化しています。

一般法人向けでは、現金管理業務の合理化に寄与し、「働き方改革」をサポートするサービスとして「入(出)金機オンラインシステム」のニーズが堅調です。契約件数は約25,000台となりました。

また、キャッシュレス時代に対応するため、複数のQRコード決済が可能な「ALSOKマルチQR決済ソリューション」も提供しています。今後も高まるキャッシュレス決済の需要を取り込むべく、更なるサービスの充実を図っていきます。

総合管理・防災事業



総合管理・防災事業においては、大型工事の完工のほか、グループ内の連携強化による各種施設の維持・管理・運営に関する総合的なファシリティマネジメント業務に取り組んでおり、建物の総合管理や清掃業務等の受注が堅調に推移しています。

2020年3月には、三菱商事株式会社と国内および海外において、ファシリティマネジメント事業に関する資本業務提携に合意いたしました。今回の提携では、三菱商事株式会社の総合力や海外ネットワークと、ALSOKグループのファシリティマネジメントのオペレーション力や警備ノウハウを融合させて、国内や東南アジアにおいて、省エネや省人化等、ビル・施設のスマート化に加え、セキュリティ・BCPを含む安全安心を提供するサービスを総合的に展開していきます。

ALSOKグループでは、グループ内での連携を強化し、ファシリティマネジメントに関する総合的なサービス提供に取り組んでいきます。

介護事業

ALSOKグループでは、認知症に対応したグループホームや有料老人ホームなどの施設サービス、訪問介護やデイサービスなどの在宅サービスおよび訪問マッサージサービスの展開により多様なお客様ニーズに対応可能な体制を整えてきました。さらに、2020年4月に東京・神奈川等の首都圏で介護施設等を運営する株式会社らいふがグループに加わりました。

2020年10月には、事業一体化と経営基盤強化を図るためALSOK介護株式会社(旧「株式会社ウイズネット」)、株式会社HCM、ALSOKあんしんケアサポート株式会社の介護事業部門、および有限会社あんていけあの4社を統合しました。今後は、施設から在宅までグループ全体で幅広いサービスを提供し、更なる事業拡大を進めるとともに、地域と共生し多くのお客様にご満足いただける高品質な介護サービスを提供していきます。また、警備会社が提供する介護事業として、ご利用者およびご家族の安全・安心に対するご期待に応え高い信頼を得られるよう、セキュリティ事業と連携しつつ、サービス内容の拡充に取り組んでいきます。



その他事業



新型コロナウイルス感染症拡大の影響により在宅勤務が急速に拡大するなか、安全安心なテレワーク環境の実現をサポートすべく、「ソリトン セキュアデスクトップサービス」等の提供を開始しました。また、緊急時の駆けつけと日常の健康相談をセットにした高齢者向け見守りサービス「HOME ALSOKみまもりサポート®」をリニューアルしました。小型見守り端末「みまもりタグ」の感知機能を搭載しており、位置履歴情報の確認ができるようになりました。加えて、熱中症の見守りや災害時の避難行動を支援する機能なども備えています。これらのサービスにより、地方自治体と連携した災害対応や地域包括ケアの実現に取り組んでいます。



ALSOK's Strengths

ALSOKの強み

お客様と社会の
安全安心に貢献する
ALSOKの強みで、
新たな価値創造に
取り組んでいきます。

ALSOKの理念を
具現化する

人材力

人や社会を守ることを価値として提供するALSOKでは、「人」が何より重要な資本となります。そのためには、経営理念にある「ありがとうの心」と「武士の精神」を、実際の行動として実践できる人材の育成が必要です。警備のプロとして、最適なセキュリティのあり方を提案できる、エキスパート人材の育成などにも注力しています。

警備対策分野の要員として、
海外の日本大使館・領事館などに
派遣された人数

延べ790人以上

女性従業員数

5,017人

(全従業員中13.2%)

セキュリティプランナー

722人

セキュリティ
コンサルタント

34人





組織力

安全安心を確実とする

業界トップクラスのネットワークを有することで、社会やお客様に安心感を提供するとともに、非常事態が発生した際には、即座に現場へ駆けつける機動力を発揮しています。

また、警備業のノウハウを活かし、ALSOKグループの介護施設への見守りサービスの提供など、グループ内のシナジーを活かした連携も実現しています。



日本全国の待機所数

約 **2,400**カ所

海外 **9**カ国に展開

従業員数 **37,902**人

保有車両台数

10,531台
(バイク・自転車含む)

現場への駆けつけ時間

平均 **16**分

行動と実績で
築き上げた

信頼

日本における警備のリーディングカンパニーとしての実績やスキルが評価され、国内外で多くの警備契約をいただいているほか、大規模イベント警備では、多数の実績を有しています。また、地域や社会からも信頼していただけの企業であるために、CSRやESGの取り組みも積極的に行っています。

機械警備契約件数

973,066件

(法人:533,733件・個人:439,333件※)

※集合住宅における対象戸数を含めると約121万戸

年間現金取扱量

約**457**兆円

「ALSOKあんしん教室®」
実施回数

累計**51,024**回



お客様と社会の安全安心を支える 「総合安全安心サービス業」を目指す



創業以来50余年、高品質なセキュリティサービスを提供し続けてきたALSOKグループは、「人材力」や「組織力」、お客様や社会からの「信頼」が大きな強みです。めまぐるしく変化する内外情勢のなか、お客様と社会の安全安心を「守る」ための新たな価値創造と持続的成長を実現し、すべてのステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。

に向けた戦略

と「武士の精神」

を推進し、
確保のために最善を尽くす。

組織力

信頼

📖 P.15-16

輸送業務 📖 P.13

介護事業 📖 P.14

理・防災事業 📖 P.14

その他事業 📖 P.14

- I. 多様化する顧客ニーズを背景としたセキュリティ事業等の強化・拡大
- II. 警備モデルの高度化と生産性向上
- III. 高齢者市場における事業拡大
- IV. 人材の安定確保と活躍推進
- V. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への対応

更なる「進化」と「深化」

持続的成長の実現

G ガバナンス

📖 P.37-44

長期目標

「総合安全安心サービス業」の実現

売上 **1** 兆円

利益 **1,000** 億円

ALSOKの新たなサービス展開

ALSOKグループは、コロナ禍でも企業や個人の安定確保に不可欠なサービスを行う事業を展開していますが同時に、新型コロナウイルス感染症対策をサポートする商品やサービスも積極的に提供しています。

1 ALSOK-G7を活用した新たなサービス

ALSOK-G7

基本構成

侵入

火災

非常

ライブ画像確認

高性能なマイク付き画像センサーにより、昼夜を問わず、店舗などのライブ画像をお客様のスマートフォンやパソコンから閲覧できます。

豊富なオプションサービスにより、お客様のニーズに合わせた最適なプランを提供

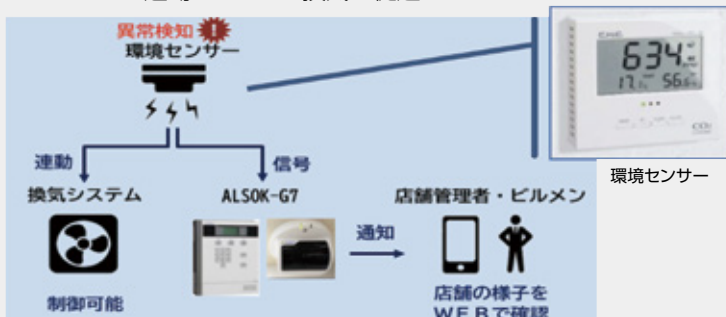


新たなニーズに対応

換気促進ソリューション

新型コロナウイルス感染症拡大防止に活用

CO₂濃度の上昇を検知
ALSOK-G7と連動することで換気を促進



新たなオプションサービス

入退館時画像確認

簡易設備制御

タブレット表示

画像蓄積(クラウド)

2 HOME ALSOK みまもりサポート[®]等を活用した地域の見守りサービス

HOME ALSOK みまもりサポート[®]

基本構成

地方自治体と連携した災害対策や「地域包括ケア」をキーワードにした多様なサービス


緊急

相談

火災

【新機能】

- ・みまもりタグとの連携
- ・熱中症見守り
- ・緊急速報メールの音声読み上げ



コントローラー

新たなニーズに対応

地域の見守りネットワーク構築

【認知症高齢者等の見守り】

- ・徘徊認知症高齢者の早期発見

→「**地域共生社会**」の実現を後押し

災害時の活用

【避難支援】

- ・避難の開始、完了を家族に通知
- ・要救助者の位置把握
- ・自治体による避難者数の集計

→**救助、集計作業の効率化を実現**



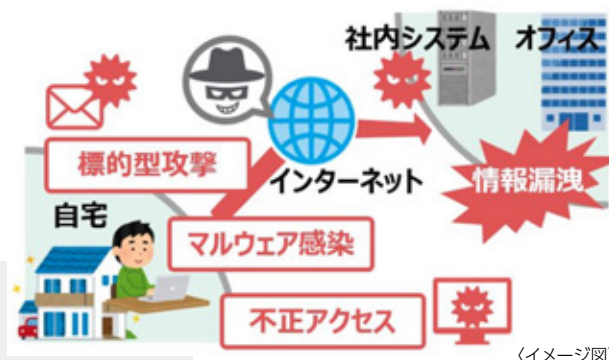
みまもりタグ
利用者の
移動経路を把握

3 その他サービス

①テレワークソリューション

サイバー攻撃からテレワーク環境を守る

- 一般家庭向けのサイバーセキュリティ対策機能付きWi-Fiルーター
【SECURIE】(セキュリエ)
- セキュアに接続するリモートデスクトップサービス
【Soliton SecureDesktopサービス】(ソリトン セキュアデスクトップ サービス)



②新型コロナウイルス検査

「(株)エムビックらいふ」においてPCR検査等3種類の新型コロナウイルス検査を開始

- PCR検査
- 抗原検査キット
- 拭き取り検査



サイバー空間の安全安心のために ALSOKができること

この特集ページでは、サイバー空間の脅威に対応する、ALSOKの情報セキュリティ分野の取り組みサービスについてご紹介します。

ALSOKの情報

サイバー攻撃の標的となる脆弱性を調査

「セキュリティ診断」

ホームページの改ざんを自動検知

「ホームページ改ざん検知サービス」

お客様のネットワークを情報警備監視センターで監視

「ネットワーク監視」

ALSOK独自の運用支援サービスを付加したIT資産管理サービス

「PCマネジメントサービス」

高速・低価格を実現したウイルス対策ソフト

「MR-EP」

地域金融機関向けサイバーインシデント取次支援

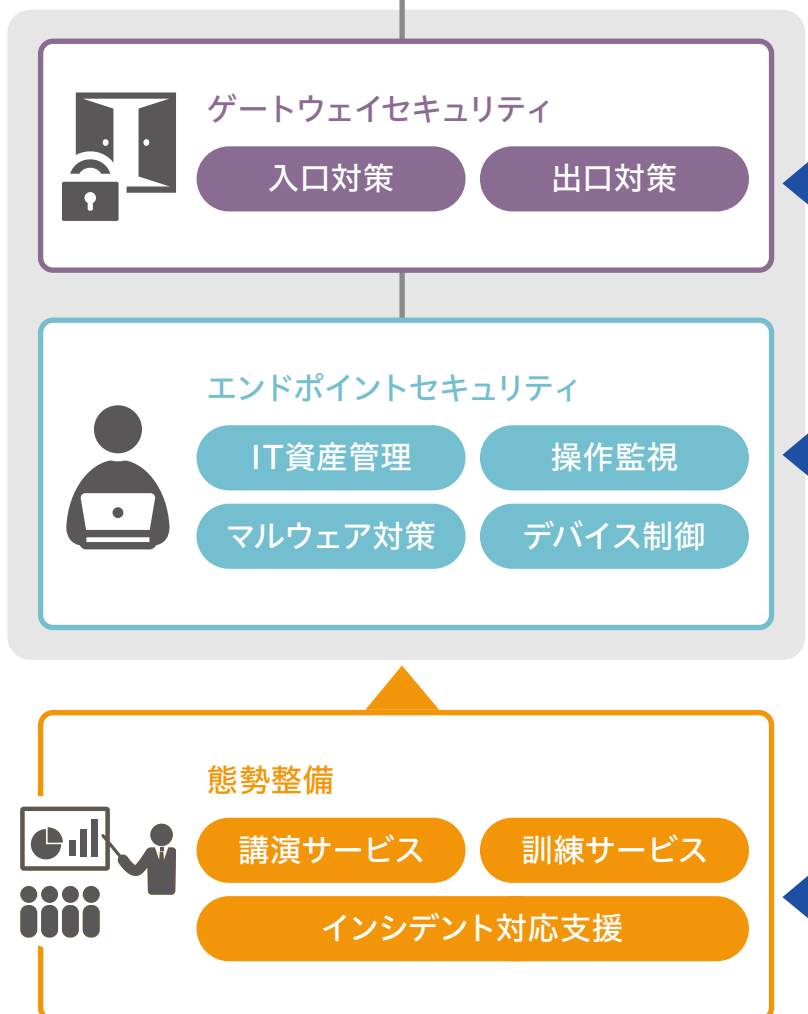
「インシデント相談窓口サービス」

標的型攻撃を模したメールで初動対応訓練

「標的型メール訓練サービス」

外部組織への参画

サイバーセキュリティに関する専門機関等へ参画し、最新事例や動向を把握



ALSOKの情報セキュリティ事業

ALSOKでは、従来のヒト・モノ・カネに加えて、お客様の大切な「情報」をお守りする情報セキュリティ事業を2008年に立ち上げました。以来、IoTやICT教育の普及、コロナ禍におけるテレワークなど、日々変化し続けるICT環境とサイバー空間の脅威に合わせ、企業だけでなく一般家庭までを含めた様々なソリューションを提供してきました。

デジタル社会の一層の進展に伴い、サイバーセキュリティに対するニーズがますます広がっており、ALSOKは今後もサイバーセキュリティサービスの拡充を図っていきます。

セキュリティサービス



家庭のサイバーセキュリティ

テレワーク

IoT家電

ご家庭のネットにつながるすべての機器を守る

「SECURIE」(セキュリエ)

専用機器の導入や設置工事が不要なアプリケーション

「Soliton SecureDesktopサービス」

(ソリトン セキュアデスクトップ サービス)

運用・監視



情報警備監視センター

情報警備監視センターは、ALSOKが警備業で培った監視ノウハウを活用した、サイバーセキュリティ専門の監視センターです。

サイバー攻撃、コンピュータウイルス、不正アクセス等のインシデントをサイバーセキュリティの専門家が24時間365日監視。異常があった場合には、迅速に対処し、お客様をサポートします。

専門家派遣

外部専門機関への
出向経験者の派遣、
知見の活用



ALSOKでは官民交流等の人材交流制度を活用し、これまでFISC(金融情報システムセンター)、NISC(内閣サイバーセキュリティセンター)などのサイバーセキュリティ関連機関に人材を派遣し、専門家育成に努めてきました。そこで得られたノウハウ、知見を活用し、お客様に総合的なアドバイスを行います。

持続可能な社会の実現のために

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs(Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標)は、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成された国際目標で、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

こうした国際社会の動向は、ALSOKグループが創業以来掲げている「ありがとうの心」と「武士の精神」という経営の基本精神のもと、お客様と社会の安全・安心の確保のために最善を尽くすという経営理念と合致しています。

社会インフラの一翼を担う企業として、国内最大級のネットワークを通じ社会に暮らす人々の安全・安心をより確かなものとする。そして、今まで培ってきたALSOKグループの強みやCSRへの取り組みをもって、創業の精神に基づき安全安心に関する様々なサービスを提供することで、持続可能な社会の実現とSDGsの達成に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





ALSOKが主に貢献するSDGs

SDGs目標	社会的課題	主な取り組み 取り組み実績	目指す姿
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p> <p>あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進展 ・介護、老老介護 ・医療、介護従事者の不足 ・食の安全確保 ・ライフワークバランスの推進 ・長時間労働の是正 	<ul style="list-style-type: none"> ・みまもりサービス ・ALSOKの介護サービス ・福利厚生制度の充実 ・健康経営の推進 <p>緊急通報システムで協働する自治体数 493自治体</p> <p>救命講習受講社員数延べ..... 19,553人</p> <p>AED販売実績累計..... 約19万1,700台</p>	<p>健康長寿の暮らしを地域全体で支える包括ケアシステムの推進</p>
<p>4 質の高い教育をみんなに</p> <p>全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大、貧困等による教育機会の損失 ・高齢者、女性、子どもがターゲットになる犯罪 ・特殊詐欺被害の防止 ・ダイバーシティの推進 ・人権の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種防犯セミナー ・学生の企業訪問受入れ ・スポーツ支援活動 ・心のバリアフリーに関する研修 <p>ALSOKあんしん教室 受講児童数延べ 約160万人</p> <p>通信教育講座の開講数 210コース</p> <p>健康経営優良法人 4年連続選定</p>	<p>質の高い教育機会の創出による次世代の育成、人材の確保</p>
<p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>包摂的で安全かつ強靭(レジリエント)で持続可能な都市および人間居住を実現する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・台風の自然災害によるリスク ・犯罪・テロへの対応 ・労働人口の減少による人手不足 ・社会インフラの老朽化 ・技術・情報資産の流出 ・過疎地などの交通弱者への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・侵入・火災・設備の監視、画像監視サービス ・河川氾濫監視、浸水監視 ・AI・IoT、警備ロボット・ドローンの導入 ・BCPソリューションサービス <p>・人命救助 35回</p> <p>・消火活動 54回</p> <p>・犯人逮捕協力 68回</p> <p>・特殊詐欺防止 35回</p> <p>(2020年3月期)</p>	<p>持続可能な都市・地域のための社会基盤の実現</p>

Column

SDGs達成に向けた意識向上のために

持続可能な社会を実現する上で、その考え方や取り組みの重要性をより社員に理解してもらうための活動を実施しています。例として、外部講師による経営層を対象としたESG講座の開催や、担当役員によるCSRやALSOKの取り組みに関する全社員に向けたストリーミング配信などを行いました。

また、2020年2月に開催した研究成果発表会では、SDGsを達成するため、直面する社会課題を捉え、様々な技術シーズを取り入れた将来につながる研究テーマの構想について伝えました。持続可能な社会の実現に向けた取り組みがALSOKの持続的成長にもつながる、という考えが基盤となっています。



セキュリティ科学研究所における研究成果発表会の様子

CSRマネジメント

ALSOKにとってのCSRは、お客様をはじめ、社会から何を求められているのかを常に考え、「ありがとうの心」と「武士の精神」に基づく経営理念を実践していくことです。

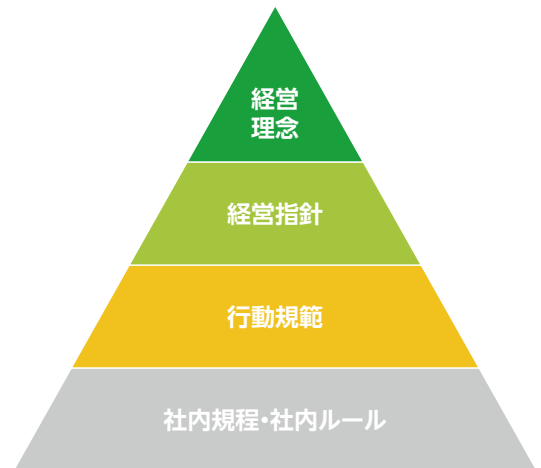
CSR活動を通じて、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成にも貢献していきます。

ALSOKにおけるCSRの考え方


ALSOKは、1965年7月の創業以来、「ありがとうの心」と「武士の精神」という2つの基本精神を掲げ、お客様と社会の「安全・安心」を守るという強い使命感のもと、警備業に邁進してきました。

ALSOKにとってのCSRは、お客様や社会が抱えるさまざまな課題を事業を通じて解決することで、お客様と社会の「安全・安心」に貢献していくことです。そのため、「経営理念」を軸に、「経営指針」「行動規範」「社内規程・社内ルール」を制定し、ALSOKとして取り組むべき活動をCSR理念体系として明確にしています。「経営指針」は、ステークホルダーに対する取り組み指針を謳い、「行動規範」では、役員・社員の日常の事業活動のなかでの行動を示しています。さらに、課題ごとに「社内規程・社内ルール」を定め、CSRを各業務に落とし込んだ活動を推進しています。

CSRの具体的な活動指針として、2014年よりCSRの4つの重要テーマを掲げ、持続的な企業価値向上と事業の発展に努めています。また、世界が抱える課題を解決するために国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」を踏まえ、よりグローバルな社会的課題解決に貢献する活動を推進していきます。



持続的な企業価値向上に向けたALSOKの取り組み

重要テーマ 1	信頼される 警備サービス	社会からの高い信頼、倫理観や規律性が要求されるALSOKでは、コンプライアンスや事業継続への取り組みを最重要課題と捉え、さまざまな取り組みを進めています。
重要テーマ 2	社会的課題の 解決に貢献する 商品・サービスの提供	自然環境の変化や社会の動向を的確に捉え、警備業で培ったノウハウを活かし、社会やお客様の課題解決に貢献する多面的なサービスを提供しています。
重要テーマ 3	人材育成と 働きやすい職場づくり	持続的な企業発展の礎となる人材が能力を最大限に発揮できるよう、研修制度の充実や積極的なキャリア支援、ダイバーシティへの対応など、職場環境の整備に取り組んでいます。
重要テーマ 4	積極的な コミュニケーションによる 地域社会への貢献	ALSOKの基本精神である「ありがとうの心」を形にするため、企業市民として、それぞれの地域社会が抱えるさまざまな課題を解決する活動を積極的に展開しています。
	地球環境への配慮	ALSOKは、地球環境問題を人類共通の課題であると認識し、気候変動枠組条約などの世界的合意や目標設定の動きを踏まえ、CO ₂ 排出量などの具体的な削減目標を掲げ、環境負荷の低減に努めるとともに、気候変動問題および自然環境保護活動に取り組んでいます。

CSR取り組み体制

ALSOKのCSR活動は、CSR推進室を中心とした取り組み体制によって推進しています。CSRやESGの最新情報をまとめた季刊誌「ALSOK CSR通信」を従業員へ配信するほか、eラーニングによる研修や、外部講師による事業所責任者に対するESG研修の実施など、グループ全体でCSRマインドの醸成につながる取り組みを行っています。

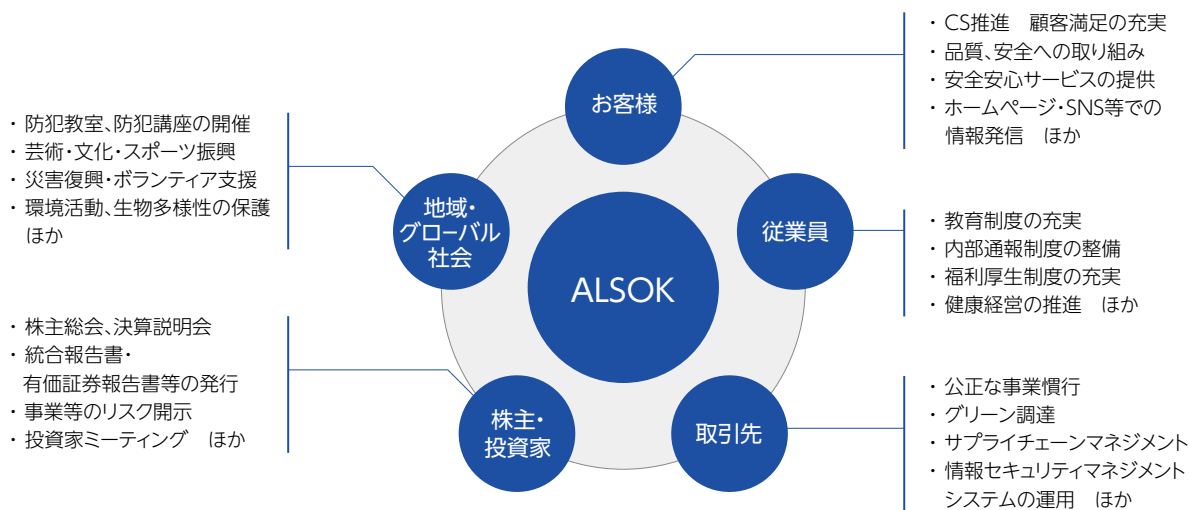
さらに、毎年1回、本社・支社および全グループ会社に向けたCSR活動に関するアンケートを実施して、ESGに関する定量的・定性的な情報を収集しています。2015年3月期からは、ALSOKの事業とCSR活動の関連性をより統合的に伝えるために、グループ全体の取り組みを財務・非財務の面からわかりやすくまとめた「ALSOKレポート」を発行し、WebサイトではCSR活動およびESGの取り組みに関する情報開示の充実を図っています。

こうした取り組みの結果、外部機関よりESGの観点から社会的責任を果たしていると認められ、投資指標や指数の構成銘柄に選定されています。

 FTSE4Good	 FTSE Blossom Japan	2020 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数
社会的責任投資指標「FTSE4Good Index Series」の構成銘柄に13年連続で選定されています。	ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄に4年連続で選定されています。	ESG投資指数「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」の構成銘柄に4年連続で選定されています。

ステークホルダーエンゲージメント

ALSOKグループの事業活動は、お客様、従業員、取引先、株主・投資家、地域・グローバル社会など、多様なステークホルダーとの関わりの中で進められています。社会的責任の国際規格である「ISO26000」などを参考に、ステークホルダーとのコミュニケーションによって得られた様々な要望や期待を真摯に受け止め、事業活動へ反映するとともに、NPO・NGO等、地域社会の各セクターとの協働を継続的に実施し、より効果的な社会課題解決への貢献を目指しています。



・ALSOKのMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるALSOKへの後援、保証、販売促進ではありません。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標もしくはサービスマークです。



E: 環境

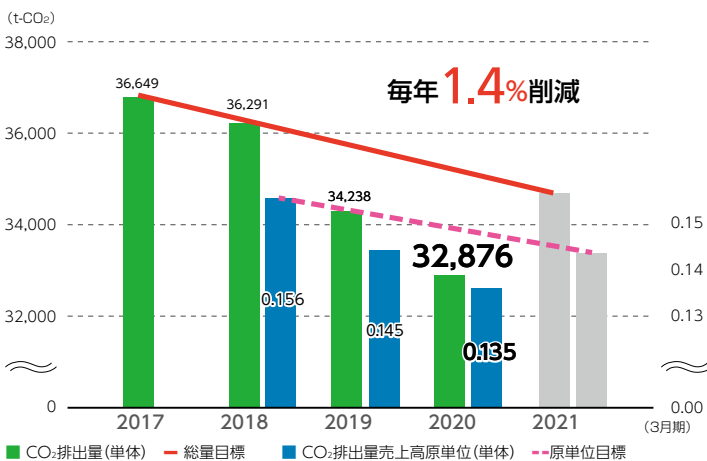
地球環境への配慮

ALSOKは、地球環境問題を人類共通の課題であると認識し、気候変動枠組条約などの世界的合意や目標設定の動きを踏まえ、CO₂排出量などの具体的な削減目標を掲げ、環境汚染の防止（汚染物質の排出を防止し、削減する）と環境負荷の低減に努めるとともに、気候変動問題および自然環境保護活動に取り組んでいます。

■ALSOKにおける気候変動等への対応

ALSOKでは、このような気候変動等への対応として、気候変動の緩和・適応策、水・海洋・森林資源の保全、循環型社会への対応、汚染防止と廃棄物管理、生物多様性の保全といった課題に関し、リスクと機会の両面から、さまざまな取り組みや商品・サービス提供を行い、課題の解決と持続可能な社会の実現を目指しています（次頁に具体例を紹介しています）。また、その他の活動として、CDP気候変動質問書への継続的な回答（昨年評価「C」）や、気候変動に関する国内イニシアティブ（JCI気候変動イニシアティブ）にも賛同・加盟しています。さらに、令和2年1月より、地球環境問題の解決と持続可能な開発に貢献することを目的として発足したNGOである地球環境行動会議（GEA: Global Environmental Action）に会員企業として加盟し、事業活動費として3,000千円を寄付しています。

CO₂排出量（総量・原単位）の削減目標と新たな短期目標および実績



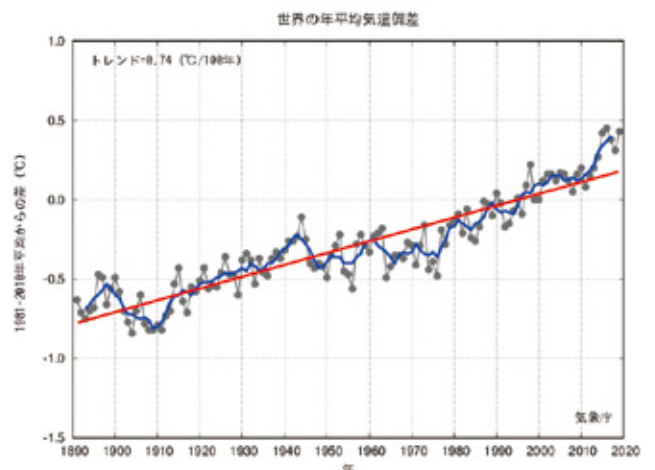
CO₂排出量の短期・中期・長期的削減目標



TOPICS

地球の温室効果ガス増加と気温上昇

近年、世界各地で熱波や豪雨、干ばつなどの極端な気象現象（異常気象）が頻発しています。我が国でも1時間100mmを超える豪雨や、40℃を超える猛暑などの異常気象が各地で観測され、企業活動や市民生活に大きな影響を与えています。これらの異常気象の原因の一つとして、人間活動により排出された二酸化炭素等の温室効果ガスに起因する地球温暖化があると考えられており、温室効果ガスの排出に伴って、世界の年平均気温は工業化以前の水準と比べると現時点で約1℃上回り、このままでは2030年から2052年の間に1.5℃上回る可能性が高いといわれています。



出典:気象庁「世界の年平均気温偏差の経年変化(1891～2019年)」

SDGsとのつながり



気候変動の緩和策

【社内対応】

- ・CO2排出量削減
- ・燃費向上
- ・省エネルギー
- ・ISO14001



【社外対応】

- ・ペーパーレスソリューション
- ・水素ステーション安全対策
- ・省エネ商品・サービス



気候変動の適応策

【社内対応】

- ・BCP対応
- ・熱中症対策
- ・ISO22301,14001,9001
- ・サプライチェーン対応



【社外対応】

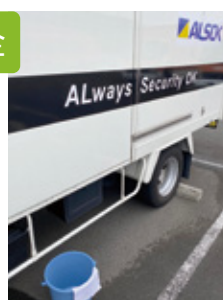
- ・BCPソリューションサービス
- ・安否確認サービス
- ・可搬型蓄電システム
- ・防災・災害対策用品



水・海洋・森林資源の保全

【社内対応】

- ・節水(洗車時等)
- ・ビーチクリーン活動
- ・植樹活動



【社外対応】

- ・水防法対策ソリューション
- ・火山災害対策ソリューション
- ・FSC認証(ALSOKレポート)



循環型社会への対応

【社内対応】

- ・勤務日誌の電子化
- ・3R
- ・小型家電リサイクル



【社外対応】

- ・メガソーラー点検
- ・キャッシュマネジメントサービス
- ・ALSOKマルチQR 決済ソリューション



汚染防止と廃棄物管理

【社内対応】

- ・グリーン調達指針
- ・環境配慮設計
- ・ISO14001



【社外対応】

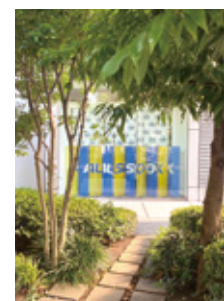
- ・機密文書集荷・再生処理サービス
- ・ビル管理・清掃業務
- ・オゾン除菌・脱臭器



生物多様性の保全

【社内対応】

- ・植樹活動
- ・里山保全活動
- ・施設緑化



【社外対応】

- ・有害鳥獣対策
- ・家畜防疫対策
- ・「経団連生物多様性宣言・行動指針(改訂版)」賛同





S: 社会

社会的課題の解決に貢献する商品・サービスの提供

社会の動向を的確に捉え、警備業で培ったノウハウを活かし、社会やお客様の課題解決に貢献する多面的なサービスを提供しています。

ALSOKの強みを活かした安心して暮らせる街づくり



01

AI・IoT×警備

高精細なカメラ、AIによる行動解析など、最先端のシステムと培ってきた警備のノウハウを融合させ、広がり続ける安全・安心のニーズに応えています。

IoT

駆けつけ



02

介護・地域のみまもり

離れて暮らす家族の見守り、有料老人ホーム、通所・訪問介護から訪問マッサージまで、ALSOKグループならではの「守る」ノウハウが活かされています。



03

警備ロボット・ドローン

警備ロボットやAIを搭載した完全自律走行ドローンなどを開発。ガードマンと連携させることによって、警備の高度化、効率化を目指しています。



セキュリティ科学研究所の取り組み

ALSOKの研究開発部門であるセキュリティ科学研究所では、社会の持続的な発展に貢献するための研究に日々取り組んでいます。

不審行動や火災を検知するAI、次世代モビリティなど、サービス実現を目指しています。



お客様の声を反映した製品リニューアル

- ・視覚障害のある方に配慮した色、ボタンデザイン、点字を採用
- ・熱中症対策として、室温の上昇を感知し注意を促す音声メッセージや、ご家族へのメールでお知らせする機能を搭載
- ・防災無線が豪雨で聞こえないという意見から、自治体が配信する緊急速報メールの読み上げを可能に

04

ファシリティマネジメント

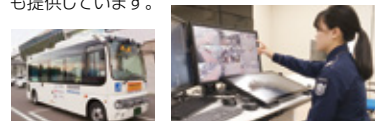
消防点検や清掃、施設管理までワンストップで行うことにより、コスト削減や建物の資産価値向上をサポートしています。



05

交通インフラ支援

自動運転の社会実装を目指し、車両遠隔監視の実証実験に参加しました。また、移動ATMや郵便局など、交通手段の減少を解決するサービスも提供しています。



06

キャッシュマネジメントサービス、ATM管理業務

07

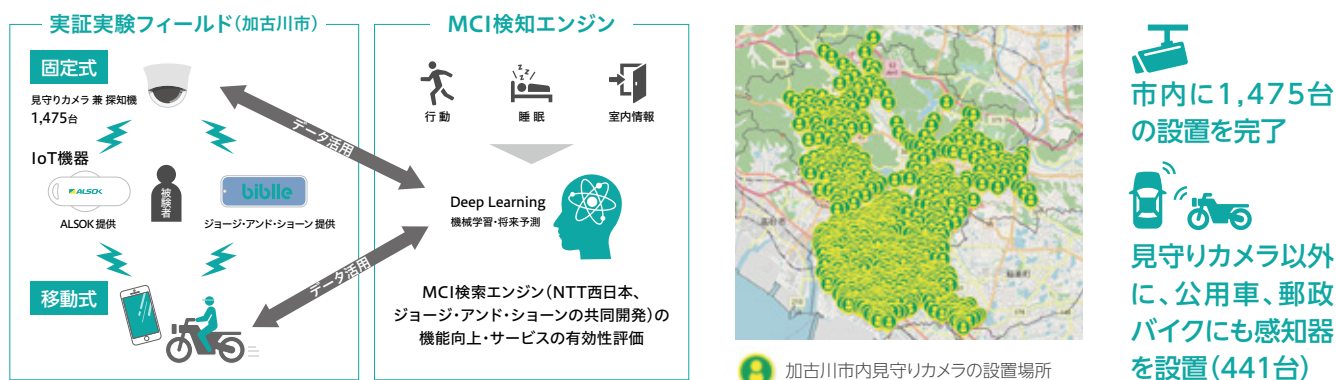
ウイルス・感染症対策



安全安心な街づくりにおける協働事例

兵庫県加古川市では、特に子育て世代や高齢者の地域課題解決に焦点をあて、地域総がかりで見守るスマートシティプロジェクトに注力しており、この取り組みの中でALSOKは、みまもりサービスを提供しています。

みまもりサービスとはBluetooth無線技術を利用した「みまもりタグ」を携帯した高齢者や子どもが、「みまもりタグアプリ」をインストールしたスマートフォンや「みまもりタグ感知器」とすれ違うごとに自動的に位置情報を蓄積するというものです。保護者は契約したみまもりタグの場所を随時把握することができます。加古川市のプロジェクトでは、見守りカメラ・みまもりタグ感知器を市内に1,475箇所、郵便車両や公用車等に441台に設置。それらの機器の稼働・運用をALSOKが担当しています。さらに、今後増加する認知症の方や患者家族の支援、早期発見のための体制整備など、認知症課題の解決へも取り組みを進めています。健康寿命の延伸につながる新たなサービス開発に向けて、加古川市や他企業との連携による実証実験へ参加しています。



VOICE

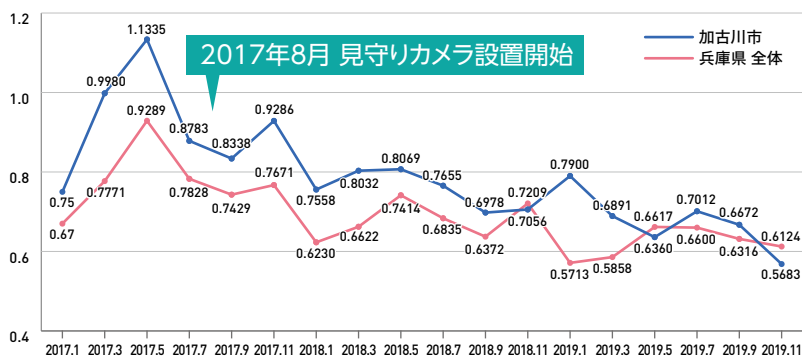
加古川市担当者へ聞く 見守りカメラ設置の効果

加古川市は兵庫県内でも刑法犯認知件数が高く、また、認知症のおそれがある高齢者の行方不明件数の増加等といった地域課題がありました。そのようななか、子育て世代が安心して暮らすことができる環境の整備や、地域総がかりで子どもや高齢者を見守る地域コミュニティの強化に注力するため、ALSOK様のご協力を得ながら、1,475台の見守りカメラを市内の小学校の通学路を中心に設置してきました。

見守りカメラを設置することにより、刑法犯認知件数は、2017年の2,926件から2019年2,025件へと大きく減少し、市民意識調査における「子どもの見守りやパトロールなどの安全対策に関して満足している市民の割合」は、2014年度の51.3%から2019年度66.2%と大きく向上しました。

また、BLEタグを活用したMCI(軽度認知障害)の早期検知の実証実験をはじめとした地域課題に寄り添った先進的な取り組みは、サステナブルな社会を目指すために重要なものと考えており、本市のスマートシティ施策に大きく寄与するものと期待しております。

千人あたりの刑法犯認知件数



2018年11月 初めて兵庫県全体を下まわる

加古川市
企画部 情報政策課副課長
兼 ICTまちづくり担当副課長
兼 新型コロナ感染症生活
支援課事務担当副課長

多田 功様



持続的な企業発展の礎となる人材が能力を最大限に発揮できるよう、研修制度の充実や積極的なキャリア支援、ダイバーシティへの対応など、職場環境の整備に取り組んでいます。

■人材育成についての考え方

ALSOKグループでは、企業活動の最も重要な源泉は人材であるという基本的な考え方に基づき、経営理念を体現する人材の育成を目指し、教育研修体制の拡充に取り組んでいます。

通信教育講座の拡充や各種公的資格の取得推進、中央省庁や他企業、グループ内での人事交流を積極的に進めることにより、組織の活性化と社員力向上を促進しています。さらに、介護など、警備以外の事業においても社内公募制度を取り入れることで事業の中核となる人材の発掘・育成にも努めています。

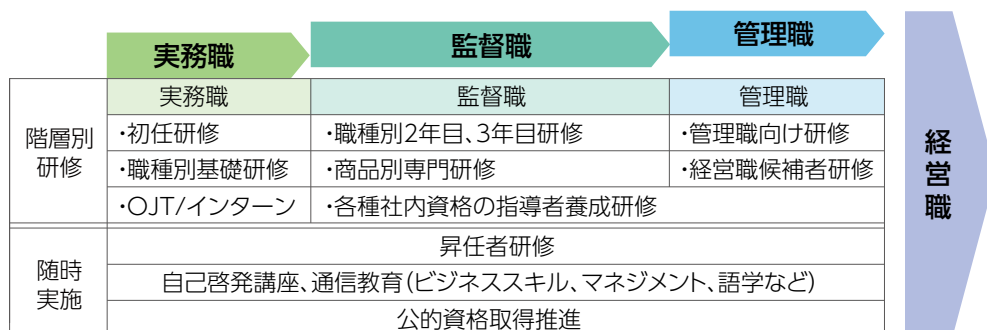
■新たな取り組み

- 社員が就きたい業務へ応募できる「ジョブマッチング制度」を導入
- 専門職大学院(MBA)への企業派遣
- 警備員教育の一部をeラーニング化
- 新入社員との1on1面談を実施

通信教育講座

210コース開講
 (前期比+90コース)

会社の持続的成長に社員力向上は欠かせません。ALSOKでは、新入社員の不安を取り除くための面談や、専門職大学院への企業派遣、通信教育講座の充実化など新しい取り組みを積極的に進めています。



■人材育成に関する取り組みの成果

従業員1人あたりの研修教育 **平均22.1時間**

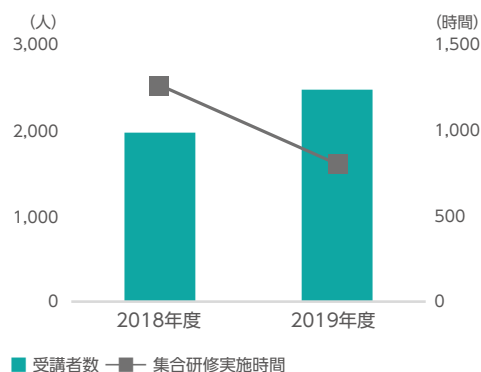
本社企画研修の開催回数 **年間187回**

eラーニング導入による変化(2018年度比)

研修受講者数 **+500名**
 集合研修の実施時間 **-457.7時間**

研修内容の一部をeラーニング化することにより、集合研修とそれに伴う移動の拘束時間が減り、社員の都合に合わせて好きな時に受講できる研修が増え、受講者数も増加しました。

受講者数と集合研修実施時間の変化





■ダイバーシティピックス

●心のバリアフリーへの取り組み

常駐・機械警備隊員に向けて介助技能の習得を義務付けたり、大規模イベント警備を担う社員へ心のバリアフリーに関する研修を実施したりすることで、社会の多様性を理解した適切な行動が取れるよう取り組んでいます。

●海外における取り組み

現地式の食事やお祈りなどを社内のイベントに取り入れることで、現地文化への理解と社員の連帯感を深めています。さらに国内と同様に優秀営業員表彰制度をスタートさせ、社員同士が国籍に関係なく切磋琢磨しています。



会社発展を祈願するALSOKインディア駐在員とスタッフ

■働き方改革・ワークライフバランス

●福利厚生充実

ポータルサイト「ALSOKベネフィット」を開設。従来の福利厚生制度に加え、ご契約先から提供いただいたクーポンを掲載することで、お客様と社員の双方にとってプラスになる制度となりました。

●ワークライフバランス

採用におけるグループ全体での連携を強化することにより、居住地に囚われず希望のエリアで勤務することが可能になっています。さらに、性別に関係なく社員が育児や介護に関する休暇を取得できるよう、制度の周知・意識向上に努めています。



育児休暇を取得した男性社員からの意見

- 育児に専念できて非常に良かった。
- 妻の負担を緩和できた。
- 男性の育児休暇に対する周りの反応が気になったが、上司に快く承諾してもらえた。
- 新しい発見の毎日で、子どもの成長を一番近くで見られることが本当に幸せだと感じた。

■健康経営の推進活動

2018年から9連休以上の長期休暇を全社員が取得できる「プラチナホリデー制度」を導入し、休みやすい職場環境の整備を進めた結果、年次有給休暇の取得率が大幅に向上しています。

また、健康宣言の制定、相談窓口となるサポートラインの設置、健康保険組合との協働による運動イベント開催など、従業員や被保険者に向けた健康づくりの取り組みを行い、社員とその家族が健康で充実した人生を送ることができる会社づくりを進めています。

ALSOK健康宣言

1. ALSOKは、社員の健康を第一に考え、優先的経営課題として健康経営に取り組みます。
2. ALSOKは、健康保険組合との積極的な協働を進め、社員の健康維持・増進に向けて取り組みます。
3. ALSOKは、健康経営を推進し、社員とその家族が健康で充実した人生を送ることができる『警備のリーディングカンパニー』として発展を続け、これからも社会の安全・安心の確保に貢献してまいります。

有給取得率(各3月末時点)

45.7% → 53.7% → 60.0%

2018年 2019年 2020年



健康経営優良法人に、4年連続で選定されています。

ALSOKの基本精神である「ありがとうの心」を形にするため、企業市民として、それぞれの地域社会が抱えるさまざまな課題を解決する活動を積極的に展開しています。

■地域貢献活動についての考え方

ALSOKでは、地域社会の「安全・安心」に対する要請や期待に応えるため、本業を活かした地域貢献活動を行っています。経営理念である「社会の安全・安心の確保」という言葉には、年齢や性別、障がいの有無に関係なく、すべての方が安全安心に生活できる未来を守るという意味も含まれていると考えています。こうした考えに基づき、事業活動だけでなくボランティアや寄付活動等にも参加し、さまざまな社会的課題の解決や地域振興に取り組んでいます。

■本業を活かした地域の安全への貢献

地域の子ども、女性、ご高齢者の方を対象に、防犯や心肺蘇生法などについて、学ぶことのできる機会を提供しています。

●ALSOKあんしん教室®



実施回数 参加者数
2,615回 81,734人

●ALSOK女性向け防犯セミナー



実施回数 参加者数
24回 2,729人

●ALSOKほっとライブ講座



実施回数 参加者数
54回 1,450人

(2020年3月期実績)

ALSOKあんしん教室®へ参加した教員・保護者の方の声

- 不審者から声を掛けられた際の対処方法や、留守番時の注意事項などを実際に体験することで、子どもたちが素直に取り入れることができた。
- あんしん教室の実施で子どもたちの登下校の様子に変化が見られ、入学したての子どもたちにも浸透し易かった。
- スクールガードが高齢化により減少しているの、とてもありがたい。
- 授業参観を通して子どもと一緒に勉強でき、コミュニケーションを図るための良い話題になった。

TOPICS

「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」特別賞を受賞

「ALSOKあんしん教室®」における防犯・救急救命教育の取り組みを評価していただき、2020年1月に東京都より特別賞を受賞しました。

また、2020年7月からは「留守番中の防災」に関する学習を追加するなど、時流に合わせて授業内容をアップデートさせています。



●おうちで防犯教室

新型コロナウイルス感染症の影響により学校で防犯を学ぶ機会が減少していることを受け、家庭で防犯について楽しみながら学んでもらえるよう、「ぼうはんかるた」をホームページ上で提供しました。



SDGsとのつながり



■ スポーツ振興活動

● スポーツ・アスリート支援

ALSOKでは多くの運動部が活動しており、所属アスリートの支援だけでなく、地域の子どもたちに向けてスポーツ教室を開催するなど、スポーツ振興にも貢献しています。また、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会の一員としても、バリアフリーに関するワーキンググループへ参画し、小学校等で開催される人権教室や、パラスポーツの普及促進イベントに参加しています。

● スポーツイベントへの協力

マラソン大会へAEDランナーとして参加する活動は、国内外でも行われています。地域の企業と協働で「ランニングパトロール」などのボランティア活動に参加するなど、スポーツイベントへも積極的に協力しています。



アユタヤ絆駅伝に参加したALSOKタイのメンバー

■ 災害支援・寄付活動

● 災害ボランティア派遣

2019年台風19号の際には、延べ60日間、総勢45名の社員が災害支援活動に参加。住居の片付けや断水地域への飲料水提供、移動型郵便車両の派遣、停電や洪水被害を受けたATMからの現金回収・洗浄処理など、多方面から支援を行いました。2020年の豪雨災害ではボランティア派遣に加え、感染症対策として次亜塩素酸水20,000ℓを九州各県の避難所へ寄贈しました。



台風19号の被害を受けた宮城県丸森町での活動



● ALSOKありがとう運動財団の活動

1967年から活動を始め2016年に公益財団法人化された「ALSOKありがとう運動財団」は、ALSOKグループの役員や社員、外部からの寄付を基に活動をしています。現金寄付、車両寄贈、災害義援金の贈呈などを通して社会福祉活動や被災地復興を支援しています。

福祉車両寄贈台数

累計 **118**台
(2020年3月末)

■ 次世代への支援、文化・芸術活動

● 子どもの支援

2017年より賛同している「子供の未来応援国民運動」では、ホームセキュリティの一部収益を寄付することで、NPOを通じて貧困状況にある子どもの生活支援を行っています。そのほか、「ALSOKありがとう運動財団」を通じた寄付、子ども食堂でのボランティアや取引先企業への支援呼びかけといった活動も行っています。

● メセナ活動

文化・芸術活動への参加による伝統行事の継承に取り組んでおり、地域の芸能文化に根差した太鼓、三味線、踊り等の活動が全国の事業所で行われています。

なかでも、ALSOK獅子舞部の活動は「This is MECENAT2020」にも認定されており、社員が披露する獅子舞の演舞は多くのお客様に喜ばれています。



お客様にも関心を持っていただけるよう、子どもの支援活動について、ホームセキュリティユーザー向けの季刊誌にも掲載されています。



THIS IS
MECENAT
2020



ALSOKの事業の原点は、「お客様に対して最高の商品・サービスを提供すること」にあります。お客様や社会から要求される信頼に応えるべく、さまざまな品質向上への取り組みを進めています。

■品質向上についての考え方

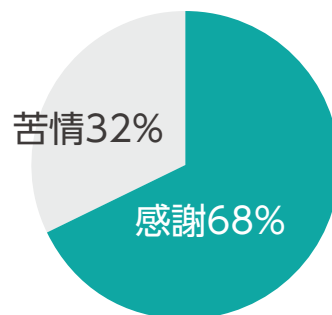
ALSOKが展開するセキュリティ事業や総合管理・防災事業、そして介護事業など、お客様の生命や財産を守る事業の性質上、信頼関係を基盤とし、お客様の意向に合う高品質なサービスを提供することが重要な経営課題と考えております。このため、集約されるお客様の声を業務改善につなげる取り組みや、社員間で切磋琢磨する社風づくり、各種マネジメントシステムの推進やリスクへの備えなど、継続的な品質向上の取り組みを推進しています。

■お客様満足と従業員満足の向上

お客様から頂戴するご意見・ご要望、苦情や感謝などの「お客様の声」は全社員に共有し、日々業務の改善を図っています。また、社員の活躍に対する賞賛や支援に対する感謝をカードに記して手渡す社員賞賛制度「GSTカード」、ES懇談会や社内表彰制度の充実などにより、お客様満足と従業員満足の向上を両立する社風づくりに取り組んでいます。



「優秀隊員表彰」受賞者集合写真



集約件数とその内訳 (2020年3月期)

「お客様の声」
2,774件

「GSTカード」配布枚数
累計 84,247枚



GSTカード (GOOD SERVICE THANKS CARD)

- 「お客様の声」は毎日集約し、役員および社長へ報告
- 社員賞賛制度「GSTカード」の導入
- 役員等と社員の間で率直な意見交換を行う「ES懇談会」
- 優良事業所表彰、優秀隊員表彰の導入

■マネジメントシステムの運用

ALSOKは2002年に品質マネジメントシステム(QMS)の国際規格「ISO9001」の認証を取得し、2020年3月末現在、ALSOKグループ全体で53社が同認証を取得しています。また、情報資産を保護するための情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)認証の取得など、PDCAサイクルによる継続的改善を図っています。

マネジメントシステム認証状況

- QMS認証
- ISMS認証
- BCMS認証
- EMS認証
- PMS認証

2020年3月末(単体)

SDGsとのつながり



■あらゆるリスクへの備え

ALSOKでは、事業継続計画(BCP)をベースに、2014年3月に事業継続マネジメントシステム(BCMS)ISO22301の認証を取得し、あらゆるリスクへ備えています。実際に災害が発生し被害が拡大する可能性がある場合は、災害対策連絡室を速やかに設置し、情報収集や人員等の資源を確保する体制を整えています。



年2回行われる総合防災訓練の様子

- BCPで想定するリスク:広域災害(地震、風水雪害、異常気象など)、局所被害(火災・爆発事故、生物・爆弾・サイバーテロなど)、システム障害(データ破壊、個人情報漏えい、システム停止など)
- 災害発生を想定した総合防災訓練の実施
- セキュリティインシデント発生への備え

災害対策連絡室
設置回数 **13回**
(2020年3月期)



手荷物検査
競技



営業
「模擬折衝」
競技



「介護品質向上発表会」受賞者集合写真

■独自基準の制定と社内競技大会等の開催

ALSOKでは、2006年に社内基準「ALSOK基準」を制定し、各事業所において、業務に必要な技能認定や公的資格数等に対する基準値の達成に努めています。

また、2010年から実務に即した内容を競技化した「総合警備連盟品質向上競技大会」を毎年開催し、大会後は各競技の優勝者の実技動画を社内掲示板で公開するなど、全グループを挙げて社員の業務執行能力と警備品質の底上げを図っています。

●ALSOK基準

業務ごとに必要な技能認定や公的資格などの保有数を、A基準とB基準の達成レベル別に分け数値化。各事業所における基準の達成と維持に努めています。

●品質向上競技大会

2019年の第10回大会では、全国予選を勝ち抜いた総勢249名が、「手荷物検査」や「模擬折衝」など19競技で、日々の業務で磨き上げた技能を競い合いました。

●介護品質向上発表会

2019年の第4回発表会では、グループ介護会社4社の12チームが、お客様へ最適なサービスを提供するための取り組みやその成果について発表を行いました。

■安全運転への取り組み

ALSOKでは、労災事故防止等の年間目標の設定、労働安全に関する教育の実施など、安全確保への対策を進めています。運転機会の多い警備部門については、セーフティドライバー認定制度や車両無事故表彰制度の導入、車載カメラやドライブレコーダーの設置による危険運転の検知など、安全運転の取り組みを推進しています。



警送車両の車載カメラ



- 警備輸送の安全に関する「運輸安全マネジメント」
- セーフティドライバー認定制度

車両無事故
表彰者数 **982名** (2020年3月期)

基本的な考え方と体制

当社は、経営理念を「我が社は『ありがとうの心』と『武士の精神』をもって社業を推進し、お客様と社会の安全・安心の確保のために最善を尽くす」と定めるとともに、「社会・公共への貢献」を経営指針のひとつに掲げ、ステークホルダーの皆様から信頼される企業グループであり続けるために、経営の執行と監督の分離、迅速な意思決定、企業倫理の確立、経営の透明性の確保などによるコーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

ALSOKのコーポレート・ガバナンスの変遷

年		2003						2020
取締役会	員数							
	社外							
監査役会	員数							
	社外							

規則改訂

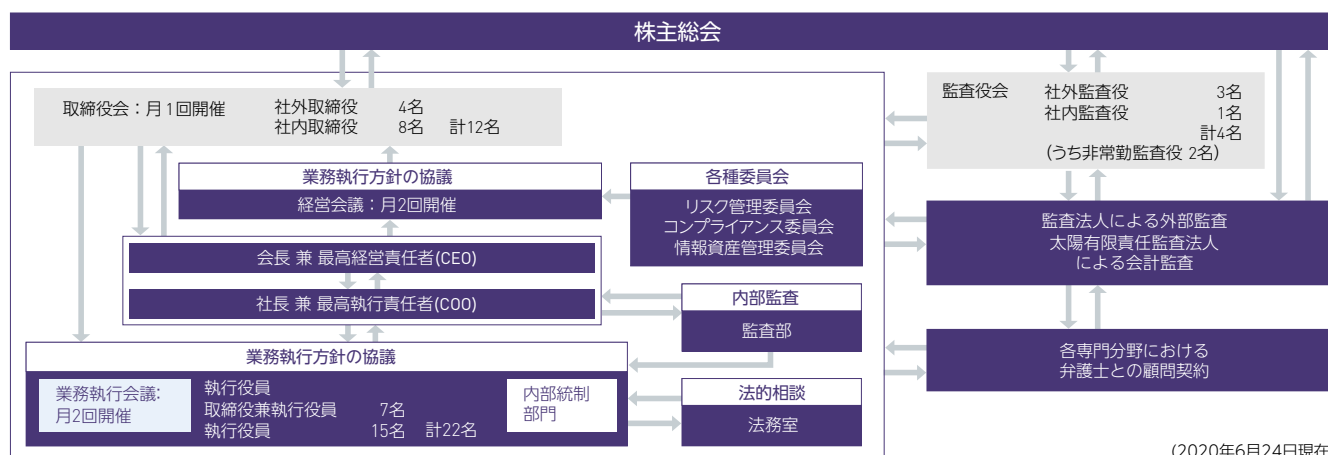
2002年 6月	執行役員制度 導入
2002年 11月	コンプライアンス規則 制定
2002年 12月	リスク管理規則 制定
2004年 4月	ALSOKホットライン 設置
2004年 8月	情報セキュリティ基本方針 制定
2004年 9月	情報資産管理委員会 設置
2004年 12月	個人情報保護方針 制定
2006年 5月	内部統制システムに関する基本方針 制定
2009年 7月	情報資産管理規則 制定
2016年 4月	ALSOKホットライン社外窓口 設置

企業統治の体制の概要および当該企業統治の体制を採用する理由

当社は監査役会設置会社であり、後述する体制の下で、監査役による実効的かつ充実した監査が行われており、経営陣に対するガバナンスが有効に機能しているものと認識しています。

当社の取締役は12名（うち社外取締役4名）、監査役は4名（うち社外監査役3名）で構成されています。

取締役会は原則として月1回開催し、経営の基本方針および業務執行に関する重要事項を決定するとともに、取締役および執行役員の職務の執行の監督を行っています。さらに、代表取締役会長を議長とする経営会議を原則として月2回開催し、取締役会に付議すべき案件を決定するとともに、取締役会の決定に基づく業務執行方針の協議を行っています。



社外役員の選任理由と活動状況

社外取締役および社外監査役については、当社において、客観的・中立的な立場から、経営陣を監視・監督する機能を担っていただくことを想定しています。

社外取締役は、社外監査役とともに当社の取締役会に出席し、出席した取締役会において適宜適切な発言を行っています。また、社外取締役は、社外監査役とともに事前に各業務主管部長等から取締役会で予定されている事項の概要説明を受けるなど実効的な経営の監視に努めています。さらに、社外監査役は、他の監査役と同様に支社および子会社への往査を実施するとともに、監査部および監査法人と定期的に情報交換、意見交換を行っており、これらにより、社外取締役による監督、監査役監査、内部監査および会計監査との相互の連携を図っています。

これらの監督または監査と内部統制部門との関係は次の通りです。

社外取締役は、取締役会への参加を通じ、内部統制部門などにおける他の取締役の業務執行状況に対し、独立した立場から監督を行っています。

社外監査役は、他の監査役と同様に内部統制部門に対する業務監査および会計監査の実施、各種資料の閲覧を通じて、内部統制部門における業務の適法性の評価を実施しています。当社は、東京証券取引所に対して、社外取締役4名および社外監査役3名を独立役員として届け出しています。

社外取締役の選任理由

氏名	選任理由	取締役会への出席状況 (2019年度)
小野 誠英	長年にわたる大手商社等における経営者として培った豊富な国際経験および見識ならびに高い能力を有しています。経営陣に対する大所高所からの貴重なご意見をいただくことにより、ALSOKグループのコーポレートガバナンスの向上・強化および企業価値のさらなる向上への貢献が期待できるため、引き続き社外取締役に選任しました。	14回/14回
門脇 英晴	長年にわたる大手金融機関等における経営者として培った豊富な経験および見識ならびに高い能力を有しています。経営陣に対する大所高所からの貴重なご意見をいただくことにより、ALSOKグループのコーポレートガバナンスの向上・強化および企業価値のさらなる向上への貢献が期待できるため、引き続き社外取締役に選任しました。	11回/14回
安藤 豊明	長年にわたる大手損害保険会社における役員として培った豊富な経験および見識ならびに高い能力を有しています。経営陣に対する大所高所からの貴重なご意見をいただくことにより、ALSOKグループのコーポレートガバナンスの向上・強化および企業価値のさらなる向上への貢献が期待できるため、引き続き社外取締役に選任しました。	11回/11回 (2019年6月就任以降)
末続 博友	長年にわたる大手鉄鋼メーカーにおける役員として培った豊富な経験および見識ならびに高い能力を有しています。経営陣に対する大所高所からの貴重なご意見をいただくことにより、ALSOKグループのコーポレートガバナンスの向上・強化および企業価値のさらなる向上への貢献が期待できるため、新たに社外取締役に選任しました。	— (2020年6月就任)

「コーポレートガバナンス・コード」への対応

当社は、企業統治に関する指針として東京証券取引所が策定した「コーポレートガバナンス・コード」の諸原則に則り、社内の組織体制などの点検・見直しをきめ細かく行っています。また、「コーポレートガバナンス・コード」への対応などを記載した「コーポレートガバナンスに関する報告書」を、東京証券取引所に毎年提出しており、当該報告書を同取引所および当社のホームページに掲載しています。

今後とも、当社では、コーポレート・ガバナンスがより有効に機能する組織体制の構築を目指し、諸制度の施策について検討を継続していきます。

実効性評価について

取締役会の実効性の評価にあたっては、全取締役および全監査役を対象として、取締役会の実効性に関するアンケートを実施し、必要に応じて個別インタビューを実施しています。それらを通じて寄せられた意見を踏まえ、取締役会の実効性の向上に努めております。

実効性評価の過程で提示された主な意見と対応

●取締役会の構成

より望ましい構成に向け、多様性の観点から、年齢・性別・国籍や企業経営以外のバックグラウンドを持つ人物などを候補とすることも検討すべき。

2020年6月には、新たに女性の社外監査役を選任。社外取締役の選任も含め、今後、更なる検討を進めていきます。

●経営計画の進捗報告

決算内容の説明については充実しているが、数値面以外での経営計画の進捗状況のさらなる報告が必要。

決算数値の説明に加え、各部門の主要施策の進捗状況等について四半期ごとの報告を行うこととしました。

●ガバナンス

グループ全体の統制、管理システムの徹底を図るべき。
人的リスク、人材マネジメントについて、より詳しい情報の報告とそれによる議論が必要。

リスク管理委員会において、事業経営に重要な影響を与える可能性のあるリスクについて、

1. 管理すべきリスク項目の網羅
2. 各リスク項目の影響度の適切な評価
3. 連結子会社並びに持分方適用会社を含めたリスク管理の観点から見直しています。これらを踏まえ、今後は関係会社を含めた内部統制や人材確保・育成に関わるリスク等の管理を一層強化していきます。

グループマネジメントについて

当社では、グループガバナンスの強化の観点から、関係会社管理のための専管部署を設置し、職務の執行に係る事項の報告および関係会社の損失の危険に係る重要な情報の報告を適時受け、当社と関係会社が連携してリスク対応を行うこととしているほか、当社から取締役または監査役を派遣するなどして厳正な指導、監督を行っています。また監査部では、「内部監査規程」に基づき、関係会社に対して経営活動の全般にわたる管理、運営の制度および業務の改善を重視しての指導、助言、勧告を実施するなど、グループ全体のコンプライアンス遵守に取り組んでいます。

役員報酬等の額に関する方針の内容および決定方法

当社は、株主総会の決議により、取締役については総額400百万円、監査役については総額120百万円を報酬限度額と決定しています。取締役の報酬は、役職および社外取締役、それ以外の取締役の別により定められている定額部分と、一定の基準に基づき各取締役の職務執行に対する業績評価を行い算定する業績連動部分から構成されており、その具体的な金額は、取締役会で決定しています。

監査役の報酬は、定額であり、その具体的な金額は、監査役会で取り決めた基準に従って決定しています。

内部統制システムの整備状況

当社は、会社法、金融商品取引法などに基づき、取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、その他株式会社の業務ならびに当該株式会社およびその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するための体制を整備しています。

なお、金融商品取引法に基づく内部統制の評価については、経営者による評価の結果、2020年3月31日現在における当社の内部統制の有効性が確認され、内部統制報告書にその旨記載しました。また、太陽有限責任監査法人により、内部統制報告書に記載された経営者による評価結果に対し、適正意見が表明されています。

コンプライアンスの徹底

当社はコンプライアンス担当役員を委員長とするコンプライアンス委員会を組織し、法令遵守に努めています。コンプライアンス委員会は、2002年に制定したコンプライアンス規則(前コンプライアンス規程)に基づき、役員および従業員に対するコンプライアンス意識の周知徹底に努め、定期的に業務活動状況などのチェックを行っています。

企業倫理上の問題の早期発見と予防については、2004年より「ALSOKホットライン」を設け、役員および従業員が会社に係る違法行為、不正行為および反倫理的行為に遭遇した際、不利益な扱いを受けることなく、電子メールや電話、文書にて内部通報が可能な体制を構築しています。なお、通報の受付窓口として、従来の社内窓口に加え、2016年より社外窓口を設置しています。

リスクマネジメント

当社は、社会安全の確保を社業とする性質上、リスク管理を特に重要視しています。2002年に制定したリスク管理規則(前リスク管理規程)に基づき、リスク管理委員会を組織し、リスク管理担当役員をその委員長としています。また、本社および各事業所単位でリスク管理検討組織を設置しており、リスクの洗い出し、評価、予防策、対策案の策定といったリスクマネジメントについて全社網羅的に取り組んでいます。さらに、リスク管理委員会に分野別のリスク検討部会を置き、該当分野ごとにリスク情報の収集、分析および評価を行い、リスク軽減のための施策を検討しています。重大事案発生時の緊急連絡体制、対策本部の設置などについても、迅速な対応が図れるよう組織体制を整備しています。

情報開示とIR

当社は、ディスクロージャー・ポリシーを定め、積極かつ公正・迅速な情報開示に努めています。また、IRサイトの見直しを行い、ステークホルダーごとに必要としている情報がわかりやすく入手できるようにしました。さらに、海外機関投資家にも国内警備業界とALSOKグループの成長戦略に対する理解を深めていただけるよう、英文IRサイトに、英文の決算短信などを掲載しています。

当社IRサイト <https://www.alsok.co.jp/ir/>





取締役



代表取締役会長

村井 温

最高経営責任者(CEO)

1995.9 警察庁中部管区警察局長(1996.6 退官)
 1996.6 預金保険機構理事(1997.9 退任)
 1997.9 当社顧問
 1998.6 代表取締役副社長
 2001.6 代表取締役社長
 2003.7 営業本部長
 2004.4 警備運用本部長
 2011.4 最高経営責任者(CEO)(現任)
 2012.4 代表取締役会長(現任)



代表取締役社長(社長執行役員)

青山 幸恭

最高執行責任者(COO)

2006.7 財務省関税局長(2008.7 退官)
 2008.8 当社常務執行役員 警備運用本部長
 2009.4 人事総括担当 運用担当 企業倫理担当
 2009.6 代表取締役専務執行役員
 2010.4 代表取締役副社長執行役員 営業本部長
 2011.4 最高執行責任者(COO)(現任)
 2012.4 代表取締役社長(現任)
 社長執行役員(現任)



代表取締役副社長(副社長執行役員)

栢木 伊久二

ALSOKカンパニー長 東日本担当 営業本部長 法人担当
東日本営業担当

1982.4 当社入社
 2011.4 第四地域本部長
 2012.4 執行役員
 2014.4 運用副総括担当 警送構造改革担当
 2015.4 常務執行役員 運用総括担当
 2017.6 取締役常務執行役員
 2018.4 代表取締役専務執行役員
 ALSOKカンパニー長(現任) 東日本担当(現任)
 営業本部副本部長 法人担当
 2019.4 代表取締役副社長(現任)
 副社長執行役員(現任)
 営業本部長 法人担当(現任)
 東日本営業担当(現任)



取締役(専務執行役員)

穂苅 裕久

海外事業担当 営業本部副本部長 営業企画・管理担当
営業推進担当 金融担当 海外事業本部長

2010.4 日本銀行業務局長(2011.6 退職)
 2011.6 当社執行役員 営業企画担当
 金融営業・営業推進担当 営業企画部長
 2012.2 常務執行役員 営業本部副本部長(現任)
 営業企画・管理担当
 2012.4 金融営業担当 警送営業担当
 2014.4 総務・企画担当 金融営業総括担当
 コンプライアンス担当 リスク管理担当 情報資産管理担当
 2014.6 取締役常務執行役員
 2016.4 経営企画担当 戦略事業担当
 営業企画・管理担当(現任) 金融担当(現任)
 2018.4 取締役専務執行役員(現任) 営業推進担当(現任)
 2019.4 海外事業担当(現任) 海外事業本部長(現任)



取締役(専務執行役員)

村井 豪

人事総括担当 総務・広報担当 東京オリンピック・パラリンピック推進本部推進担当
 企業倫理担当 コンプライアンス担当 リスク管理担当
 情報資産管理担当 統括カンパニー担当

- 1999.7 当社入社
- 2007.6 ホームマーケット営業部長
- 2010.4 執行役員 第一地域本部長
- 2011.2 総合管理担当
- 2011.3 日本ファンリオ(株)出向 代表取締役社長(2014.3 退任)
- 2014.4 常務執行役員 営業本部副本部長 営業企画・管理担当 地域金融営業担当
- 2016.4 人事総括担当(現任) 企業倫理担当(現任)
- 2016.6 取締役常務執行役員
- 2018.4 総務・広報担当(現任) コンプライアンス担当(現任)
 リスク管理担当(現任) 情報資産管理担当(現任)
 東京オリンピック・パラリンピック推進本部長
- 2018.5 中日本担当 営業本部副本部長 中日本営業担当
- 2019.4 取締役専務執行役員(現任)
 東京オリンピック・パラリンピック推進本部推進担当(現任)
- 2020.4 統括カンパニー担当(現任)



取締役(常務執行役員)

野村 茂樹

関西駐在 西日本担当
 第二地域本部長
 営業本部副本部長 西日本営業担当

- 1984.4 当社入社
- 2011.4 人事部長
- 2011.6 執行役員 人事担当
- 2014.4 常務執行役員
 中日本担当
 営業本部副本部長 中日本営業担当
 第三地域本部長
- 2017.4 第七地域本部長
- 2017.6 取締役常務執行役員(現任)
- 2018.5 西日本担当(現任)
 営業本部副本部長 関西営業担当
- 2019.4 営業本部副本部長 西日本営業担当(現任)
- 2020.4 第二地域本部長(現任)



取締役(常務執行役員)

鈴木 基久

運用総括担当 警送構造改革担当
 東京オリンピック・パラリンピック推進本部長

- 2015.1 警察庁交通局長(2016.1 退官)
- 2016.4 当社常務執行役員
 総務・広報担当 調達担当 運用副総括担当
 HOME ALSOK担当 コンプライアンス担当
 リスク管理担当 情報資産管理担当
 営業本部副本部長
- 2018.4 運用総括担当(現任)
 警送構造改革担当(現任)
 東京オリンピック・パラリンピック推進本部副本部長
- 2019.4 東京オリンピック・パラリンピック推進本部長(現任)
- 2019.6 取締役常務執行役員(現任)



取締役(常務執行役員)

岸本 孝治

経理担当 内部統制担当 調達担当

- 1985.11 当社入社
- 2012.10 経理部長
- 2016.4 執行役員 経理副担当
- 2018.4 常務執行役員
 経理担当(現任)
 内部統制担当(現任)
- 2019.4 調達担当(現任)
- 2020.6 取締役常務執行役員(現任)



G: ガバナンス

取締役、監査役および執行役員

(2020年6月24日現在)

取締役(社外)



取締役(社外)

小野 誠英

- 2009.4 三菱商事(株)常務執行役員(2013.3 退任)
- 2010.4 米国三菱商事会社社長(2012.3 退任)
- 2012.4 北米統括兼北米三菱商事会社社長(2013.3 退任)
- 2013.12 (株)三菱総合研究所 代表取締役専務
- 2014.12 同社代表取締役副社長(2016.12 退任)
- 2016.12 同社常勤顧問(2017.12 退任)
- 2017.6 当社取締役(現任)
- 2018.1 (株)三菱総合研究所顧問(2018.12 退任)



取締役(社外)

門脇 英晴

- 2001.4 (株)三井住友銀行代表取締役専務取締役兼 専務執行役員(2002.11 退任)
- 2002.12 (株)三井住友フィナンシャルグループ代表取締役専務取締役
- 2003.6 同社代表取締役副社長(2004.3 退任)
- 2004.6 (株)日本総合研究所理事長(2008.6 退任)
- 2008.6 同社特別顧問・シニアフェロー(現任)
- 2012.6 学校法人アジア学院理事(現任)
- 2017.7 (株)シーボン顧問(2018.6 退任)
- 2018.6 当社取締役(現任) (株)シーボン社外取締役(現任)
- 2019.12 (株)オークファン社外取締役(現任)



取締役(社外)

安藤 豊明

- 2009.6 東京海上日動火災保険(株)執行役員
- 2011.6 同社常務執行役員
- 2013.6 同社常務取締役(2015.3 退任)
- 2015.4 同社顧問(2015.6 退任)
- 2015.6 損害保険料率算出機構常務理事(2019.6 退任)
- 2019.6 当社取締役(現任)



取締役(社外)

末続 博友

- 2009.4 新日本製鐵(株)(現日本製鉄(株))執行役員(2012.6 退任)
- 2012.6 同社監査役(2016.6 退任)
- 2016.6 新日鉄住金(株)(現日本製鉄(株))顧問(2019.6 退任)
- 新日本電工(株)顧問(現任)
- 2020.6 当社取締役(現任)

執行役員

常務執行役員

重見 一秀

経営企画担当
戦略事業担当

常務執行役員

熊谷 敬

介護事業担当
営業本部副本部長
(株)らいふホールディングス
代表取締役社長
(株)らいふ代表取締役社長
(株)エムビックらいふ
代表取締役社長

常務執行役員

鈴木 一三

開発技術等総括担当

常務執行役員

水谷 紀彦

中日本担当
綜管工事担当
営業本部副本部長
中日本営業担当
綜管工事営業担当

執行役員

円谷 哲也

総務副担当
総務部長

執行役員

百武 尚樹

人事担当
人事部長

執行役員

吉田 浩儀

東京オリンピック・
パラリンピック推進担当
東京オリンピック・
パラリンピック推進部長

監査役



常勤監査役

高野 明

- 1980.4 当社入社
- 2012.6 営業管理部長
- 2014.4 人事部長
- 2016.4 執行役員 人事担当
- 2017.4 第五地域本部長
- 2019.6 常勤監査役(現任)



常勤監査役(社外)

中野 慎一郎

- 2008.6 農林中央金庫統合リスク管理部長
- 2012.6 同企画管理部長
- 2014.6 同常務理事(2019.3 退任)
- 農林中金/バリューインベストメント(株)取締役(2018.3 退任)
- 農中信託銀行(株)取締役(2019.3 退任)
- 協同住宅ローン(株)監査役(2019.6 退任)
- 2019.4 農林中央金庫常任参与(2019.6 退任)
- 2019.6 当社常勤監査役(現任)



監査役(社外)

上野山 実

- 2007.6 松下電器産業(株)(現パナソニック(株))取締役
- 2010.4 パナソニック(株)常務取締役(2012.6 退任)
- 2012.6 同社常務役員(2013.3 退任)
- 2013.4 同社顧問(2015.3 退任)
- 2013.6 当社常勤監査役
- 2015.4 パナソニック(株)客員(現任)
- 2017.6 当社監査役(現任)
- 2019.6 日立金属(株)社外取締役(現任)



監査役(社外)

長沢 美智子

- 1984.4 弁護士登録
- 2007.4 学習院大学法科大学院教授(2013.3 退任)
- 2008.1 東京丸の内法律事務所/パートナー(現任)
- 2012.4 第二東京弁護士会監事(2013.3 退任)
- 2013.3 (株)大家家具社外取締役[2017.3より監査等委員](2019.3 退任)
- 2016.7 日本弁護士連合会財務委員会副委員長(2017.6 退任)
- 2018.7 国土交通省国立研究開発法人建築研究所監事(現任)
- 2019.6 SBプレイヤーズ(株)社外取締役(現任)
- 2020.4 日本弁護士連合会監事(現任)
- 2020.6 双日(株)社外監査役(現任) 当社監査役(現任)

執行役員

吉本 康弘

総合管理・防災担当
日本ビル・メンテナンス(株)
代表取締役社長

執行役員

小野 誠司

法人副担当
HOME ALSOK担当

執行役員

熊崎 善夫

第一地域本部長

執行役員

小野 裕之

第三地域本部長

執行役員

高橋 賢

第五地域本部長

執行役員

小森 篤

第七地域本部長

執行役員

小松 裕

ALSOK北海道(株)
代表取締役社長

執行役員

長嶋 義春

ALSOK千葉(株)
代表取締役社長

財務レビュー

2019年度の振り返り

2019年度の連結業績は、売上高は460,118百万円(前期比3.7%増)、営業利益は36,795百万円(前期比14.0%増)、経常利益は38,880百万円(前期比14.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は24,163百万円(前期比8.5%増)となりました。売上は、10期連続で増収、9期連続で過去最高を更新いたしました。利益についても、各利益段階で過去最高を更新し、親会社株主に帰属する当期純利益は、8期連続で増益となりました。また、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標として、売上高経常利益率とROE(連結自己資本当期純利益率)を重視しております。当連結会計年度は、売上高経常利益率8.5%、ROE10.1%となっており、中期経営計画「Grand Design 2020」に掲げた目標である8.0%程度と10.0%程度をそれぞれ上回っています。

2019年度における我が国経済は、第2四半期以降海外経済の減速、消費税率引き上げ等により企業の業況判断が悪化しておりましたが、年明け2月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延により、我が国はもとより欧米主要国の経済活動が大きく減速した状態となっており、リーマンショックをはるかに上回る経済の落ち込みが懸念される状況です。このような情勢のなか、ALSOKグループは、社会の安全安心に関するサービス(セキュリティサービス事業、総合管理・防災事業、介護事業)を行う事業者として、適切にサービ

スを提供し、事業を継続してまいりました。また、中期経営計画「Grand Design 2020」に掲げたとおり、お客様と社会の安全安心を支える「総合安全安心サービス業」を目指して、多様化・高度化する一人一人のお客様と社会の安全・安心ニーズに応えるべく、セキュリティ事業とその関連事業の進化・深化に引き続き取り組んでいます。

中期経営計画最終年度へ向けて

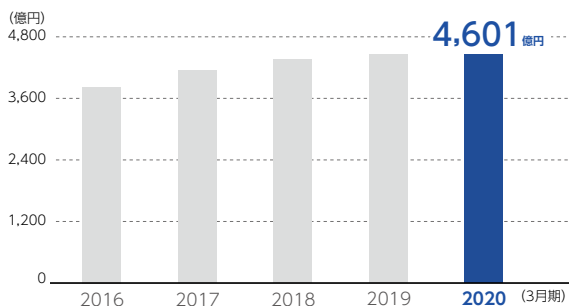
2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅なマイナス成長が見込まれています。警備業界においては、各種イベントの中止や、休業または廃業となる店舗・企業の増加を受け、警備契約の中断・解約や警備料金の値下げなどの影響が予想されます。他方、休業や在宅勤務等で無人となる店舗・事業所等の増加、一人暮らしの高齢者や留守番の子ども等の安全・安心への懸念、新型コロナウイルスに便乗した詐欺等の犯罪などにより、治安の悪化も予想され、ALSOKグループの更なるサービス提供が期待されます。

このような事業環境の中でALSOKグループは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策にかかる国の方針や行動計画、自治体の指導に基づき、感染症拡大防止および事業継続に取り組んでいくとともに、お客様と社会の新たな安全安心ニーズに的確に応えてまいります。

また、お客様と社会の安全・安心を支える「総合安全安心サービス業」を目指し、多様化する顧客ニーズを背景とした

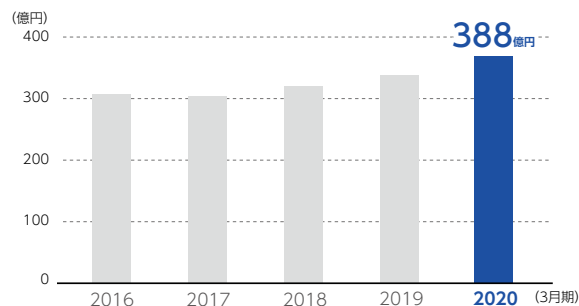
売上高

4,601 億円 前期比 3.7%増 ↑



経常利益

388 億円 前期比 14.8%増 ↑



セキュリティ事業の強化・拡大に加え、国内外におけるファシリティマネジメント業務の推進や介護およびその関連事業の強化等にも取り組むとともに、最新技術を活用した新商品・サービスの提供に努めながら、生産性の向上を図ることで、グループの持続的成長を実現してまいります。

これらの実施により、ALSOKグループの2021年3月期の連結業績予想は、売上高485,000百万円(前期比5.4%増)、営業利益37,600百万円(前期比2.2%増)、経常利益39,200百万円(前期比0.8%増)、親会社株主に帰属する当期純利益24,700百万円(前期比2.2%増)を見込んでおります。

成長投資に向けた考え方 (設備投資・研究開発)

設備投資は、警備業務を中心とした事業の拡大への対応と能力の向上を図るため、2019年度において有形固定資産並びに無形固定資産へ総額14,066百万円の設備投資を実施いたしました。主な内容は、機械警備用機器6,697百万円、建物784百万円、器具備品873百万円、ソフトウェア1,219百万円、その他の無形固定資産1,422百万円となります。

研究開発は、収益性の向上に貢献することを目的とし、多様化する市場ニーズを捉え、かつ市場競争力のある技術および商品の開発を推進することを基本方針としております。

当連結会計年度における研究開発費は、総額594百万円であり、主にセキュリティ事業に係るものであります。また、当社の研究開発部門は、研究や開発に該当しない調査・企画・知的財産管理・品質管理等の活動についても研究開発と一体として行っており、研究開発費にこうした活動に係る費用を加えた総額は1,388百万円であります。

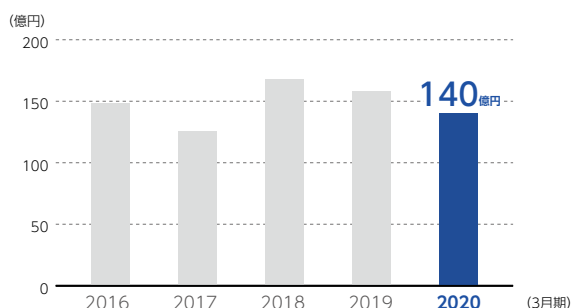
当社では、毎日の安全安心な暮らしのために、「少子高齢化による人手不足」、「特殊詐欺、スティーラー犯罪、子どもや女性を狙った犯罪」などに対処するために、様々な研究を行っております。さらに、新型コロナウイルス感染症対策にも取り組んでいきます。

株主還元の方針

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要政策として位置付け、内部留保の充実を図りながら、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。内部留保資金は、将来の成長・発展に必要な研究開発費、情報システムの高度化や新規事業のための設備投資等に充当し、業績の一層の向上に努めてまいります。また、当社は中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配分を行うことを基本的な方針としており、これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会となります。

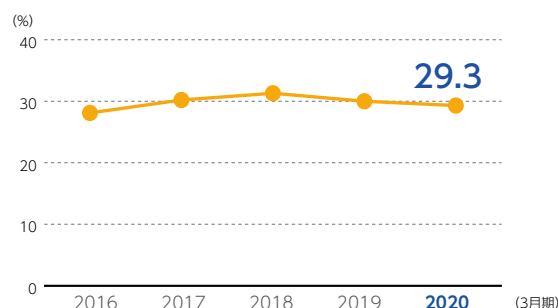
設備投資額

140億円 前期末比 11.2%減 ↓



連結配当性向

29.3% 前期末比 0.7pt減 ↓



11年サマリー

3月31日に終了した会計年度	2010	2011	2012	2013
損益状況(百万円)				
売上高	278,579	279,272	304,723	315,564
売上原価	210,097	209,364	232,812	242,410
売上総利益	68,482	69,908	71,910	73,153
販売費および一般管理費	59,211	59,555	61,100	61,363
営業利益	9,270	10,352	10,810	11,790
経常利益	10,819	11,765	12,558	14,741
親会社株主に帰属する当期純利益	4,563	4,706	3,903	8,574
収益性				
売上高総利益率(%)	24.6	25.0	23.6	23.2
売上高営業利益率(%)	3.3	3.7	3.5	3.7
売上高経常利益率(%)	3.9	4.2	4.1	4.7
総資産経常利益率(ROA)(%)	3.8	4.2	4.4	5.1
自己資本当期純利益率(ROE)(%)	3.3	3.3	2.7	5.7
EV/EBITDA(倍)*	2.3	1.4	1.4	2.7
安定性				
自己資本比率(%)	50.9	50.3	51.3	52.1
時価ベースの自己資本比率(%)	39.4	32.0	34.8	46.5
有利子負債残高(百万円)	51,318	49,311	39,270	37,455
インタレストカバレッジレシオ(倍)	24.0	20.1	34.1	36.9
効率性(回)				
総資産回転率	1.0	1.0	1.1	1.1
自己資本回転率	2.0	2.0	2.1	2.1
有形固定資産回転率	4.9	4.9	5.2	5.4
1株当たり指標				
1株当たり純資産(BPS)(円)	1,397.90	1,421.67	1,446.93	1,536.30
1株当たり当期純利益(EPS)(円)	45.39	46.82	38.83	85.30
株価純資産倍率(PBR)(倍)	0.8	0.6	0.7	0.9
株価収益率(PER)(倍)	23.9	19.3	25.3	16.1
1株当たり配当金(円)	20	20	20	25
連結配当性向(%)	44.1	42.7	51.5	29.3
期末株価(円)	1,083	905	982	1,373
その他情報				
従業員数(連結)(人)	27,322	27,790	27,868	28,054
平均勤続年数(単体)(年)	12.3	12.7	13.3	13.8
育児休職からの復職率(男女)(単体)(%)	92.2	90.2	93.3	97.6
CO ₂ 排出量(単体)(t-CO ₂)	40,871	39,968	38,022	38,587

* EV/EBITDA倍率の算出式は下記の通りです。
EV = 時価総額 + 有利子負債 - 手元流動性(現金および預金 + 有価証券)
EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

* 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準28号2018年2月)に基づき
2017年度以降の財務情報についても変更しています

2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
328,209	365,749	381,818	413,343	435,982	443,535	460,118
248,900	276,116	282,880	310,704	330,493	334,197	345,097
79,308	89,632	98,937	102,639	105,489	109,338	115,020
60,375	66,660	69,901	74,217	75,378	77,057	78,224
18,932	22,971	29,036	28,422	30,111	32,280	36,795
20,745	24,700	30,667	30,309	31,913	33,881	38,880
10,955	13,534	17,868	18,330	19,344	22,269	24,163
24.2	24.5	25.9	24.8	24.2	24.7	25.0
5.8	6.3	7.6	6.9	6.9	7.3	8.0
6.3	6.8	8.0	7.3	7.3	7.6	8.5
6.5	6.9	8.5	8.2	8.2	8.4	9.3
7.0	7.8	9.9	9.7	9.3	9.9	10.1
5.3	10.1	13.4	8.7	10.7	8.7	8.6
46.2	48.4	51.9	51.0	55.0	56.8	57.3
63.5	110.1	175.4	108.2	134.3	119.0	124.2
71,666	73,699	47,210	65,599	52,658	47,412	51,264
36.4	28.5	30.1	54.2	25.8	18.1	26.2
1.0	1.0	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1
2.1	2.1	2.1	2.2	2.1	2.0	1.9
5.2	5.4	5.3	5.1	4.9	5.0	5.2
1,574.74	1,800.15	1,805.09	1,956.25	2,155.74	2,302.38	2,425.02
108.99	134.65	177.77	182.37	191.93	219.98	238.69
1.4	2.3	3.4	2.1	2.4	2.1	2.2
19.9	30.4	34.3	22.8	27.5	21.9	22.0
30	38	50	55	60	66	70
27.5	28.2	28.1	30.2	31.3	30.0	29.3
2,164	4,095	6,100	4,155	5,260	4,820	5,260
28,091	31,221	31,446	36,693	37,519	37,417	37,902
14.4	14.9	15.4	15.9	16.4	16.8	17.2
92.4	96.6	93.7	91.3	98.3	98.1	98.2
41,377	39,212	37,390	36,649	36,291	34,238	32,876

売上高内訳／契約件数の推移

業務別売上高

(億円)

3月31日に終了した会計年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
セキュリティ事業										
機械警備業務	1,384	1,429	1,471	1,518	1,604	1,671	1,705	1,740	1,755	1,755
常駐警備業務	713	713	738	772	884	939	1,004	1,100	1,119	1,169
警備輸送業務	476	498	508	510	523	546	561	602	622	656
総合管理・防災事業	170	366	406	448	583	549	578	619	629	692
介護事業 ^{*1}	—	—	—	—	—	75	249	257	265	281
その他	47	40	30	32	62	35	34	39	42	46
合計	2,792	3,047	3,155	3,282	3,657	3,818	4,133	4,359	4,435	4,601

※1 「介護事業」の売上高は、2017年3月期より開示セグメントとしているため、2016年3月期以降の売上表示としています。
2015年3月期以前の当該売上高については、「その他」の売上高に含まれています。

業種別売上高

(億円)

3月31日に終了した会計年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
事業法人	1,609	1,784	1,865	1,967	2,249	2,343	2,449	2,636	2,712	2,829
金融機関	883	907	898	905	913	923	917	920	914	932
公共法人	193	205	220	228	264	262	297	315	312	322
個人 ^{*2}	106	149	171	180	229	289	468	490	497	516
合計	2,792	3,047	3,155	3,282	3,657	3,818	4,133	4,359	4,435	4,601

※2 「HOME ALSOK アパート・マンションプラン」や「HOME ALSOK みまもりサポート[®]」は、ご契約先が「法人」や「自治体」であっても「個人」に含めています。

契約件数

(件)

3月31日に終了した会計年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
セキュリティ事業										
機械警備業務等	541,654	580,263	630,977	677,672	803,601	854,083	888,955	922,928	949,858	973,066
法人向け	396,580	406,261	422,676	440,028	463,053	478,925	493,035	508,374	520,942	533,733
個人向け	145,074	174,002	208,301	237,644	340,548	375,158	395,920	414,554	428,916	439,333 ^{**4}
常駐警備業務	2,866	2,934	3,020	3,227	3,597	3,871	4,213	4,357	4,485	4,468
警備輸送業務	39,065	48,284	51,698	55,420	59,134	62,146	65,755	72,454	75,652	77,791
総合管理・防災事業	44,212	47,913	54,903	63,004	73,898	81,908	89,670	98,044	104,254	109,697
介護事業 ^{*3}	—	—	—	—	—	12,804	22,628	21,234	25,364	24,976
その他	8,307	8,957	11,989	13,725	22,477	18,217	22,285	25,263	25,896	29,382
合計	636,104	688,351	752,587	813,048	962,707	1,033,029	1,093,506	1,144,280	1,185,509	1,219,380

※3 「介護事業」の契約件数は、2017年3月期より開示セグメントとしているため、2016年3月期以降の件数表示としています。
2015年3月期以前の当該件数については、「その他」の契約件数に含まれています。

※4 集合住宅向けの対象戸数を含めると約121万戸となります。

会社情報 / 株式情報

(2020年3月31日現在)

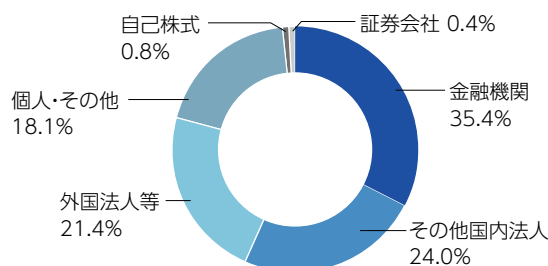
会社情報

社名 総合警備保障株式会社
 本社所在地 〒107-8511 東京都港区元赤坂1-6-6
 設立年月日 1965年7月16日
 資本金 18,675百万円
 決算期 3月31日
 従業員数 37,902名(連結) 11,704名(単体)
 事業拠点 本社・64支社・37支店・252営業所
 連結子会社75社(海外子会社10社含む。)
 持分法適用会社10社

株式情報

発行可能株式総数 300,000,000株
 発行済株式総数 102,040,042株
 (自己株式 782,041株を含む。)
 株主数 11,189名
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)
 証券コード 2331
 1単元の株式の数 100株

所有者別株式分布状況

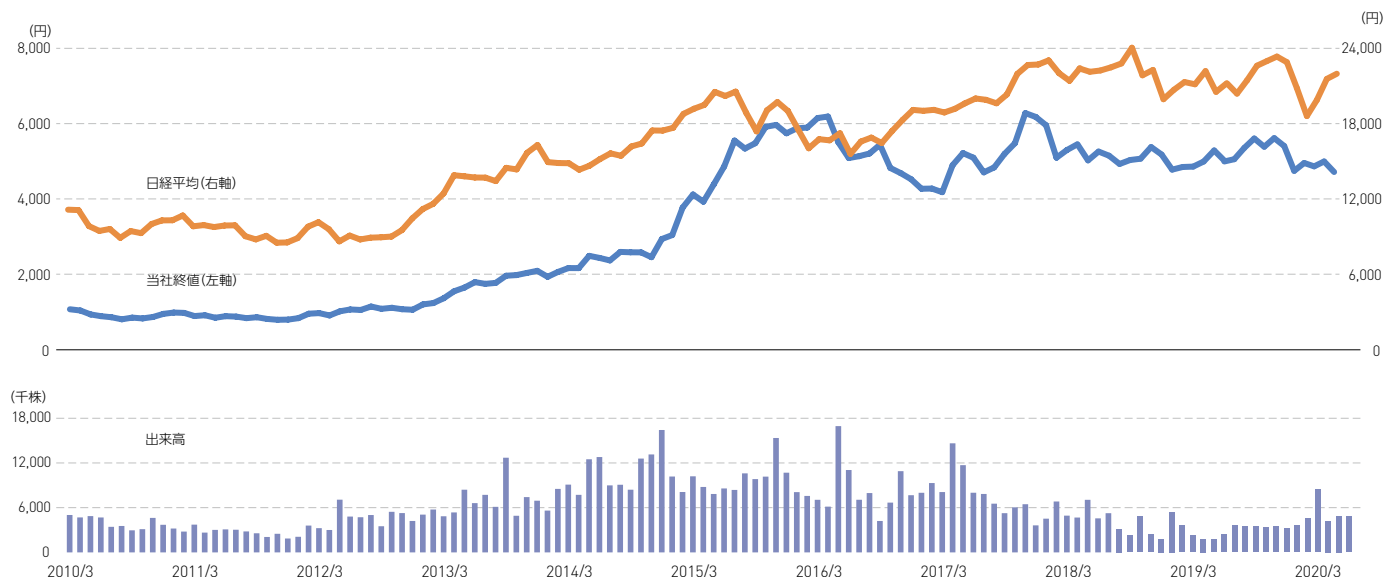


大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
総合商事株式会社	7,388	7.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,590	5.52
埼玉機器株式会社	5,283	5.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,029	4.96
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口		
再信託受託者資産管理サービス信託銀行株式会社	4,261	4.20
かまくら商事株式会社	4,150	4.09
総合警備保障従業員持株会	3,853	3.80
きずな商事株式会社	2,950	2.91
村井 温	2,885	2.84
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	2,829	2.79

注:持株比率は、自己株式(782,041株)を控除して計算しています。

株価チャート



ALSOKは「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」のオフィシャルパートナーです。

ALSOKは、2015年10月、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と「東京2020スポンサーシッププログラム」における「東京2020オフィシャルパートナー(セキュリティサービス&プランニング)」契約を締結しました。ALSOKは長年にわたり、柔道、レスリングなどの競技において多くのオリンピック日本代表選手を送り出すなど、わが国のスポーツ振興に貢献してきましたが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、引き続きアスリートたちの挑戦を支援するとともに、オールジャパンの体制で大会の警備を万全に行い、大会の成功に貢献していきます。



東京2020オフィシャルパートナー(セキュリティサービス&プランニング)



総合警備保障株式会社

〒107-8511 東京都港区元赤坂1-6-6

URL <https://www.alsok.co.jp/>

IR室 TEL.03-3423-2331
FAX.03-3470-1565

CSR推進室 TEL.03-3470-1972
FAX.03-5411-1636

総合ガードシステム、アマンドシステム、タクルス、あんしん教室、REBORG(リボーク)、HOME ALSOKみまもりサポートは、総合警備保障株式会社の登録商標です。



ALSOK 🔍



@ALSOKnow 🔍



ALSOKofficial 🔍



●このレポートを作成する際に排出されたCO₂(2,000kg)は、環境省で認証されたオフセット・クレジットによりカーボンオフセットしています。